

2025年度 社会イノベーション学部 履修の手引 変更履歴

更新日	頁	変更前	変更後	備考
2025/03/31	4	—	歴史文化論演習a・b	休講科目の追加
2025/04/03	39	—	取り消し線の追加	特別な履修登録手続きが必要な科目の更新
2025/04/03	63	—	取り消し線の追加	特別な履修登録手続きが必要な科目の更新

S e i j o U n i v e r s i t y

2025 ACADEMIC GUIDE

Faculty of Social Innovation

履修の手引

社会イノベーション学部

政策イノベーション学科 心理社会学科

※「電子ブックの使い方」はこちらを参照すること。
※やむを得ない事情により、記載内容が変更される場合がある。
その場合、記載内容を修正するとともに、
LiveCampusU等で周知するので、必ず確認すること。

成 城 大 学

社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧

■ 学年暦

	日程等	行事
前 期	4月2日(水)	入学式
	4月8日(火)	前期開講
	4月29日(火)【昭和の日】	授業実施
	5月10日(土)	振替授業実施(月曜日の授業を行う)
	6月27日(金) ※5時限のみ休講	全学総会
	7月21日(月)【海の日】	授業実施
	7月22日(火)	前期授業終了
	7月23日(水)～7月30日(水)	学期末定期試験期間
後 期	8月1日(金)～9月21日(日)	夏季休業
	9月22日(月)	後期開講
	9月23日(火)【秋分の日】	授業実施
	10月13日(月)【スポーツの日】	授業実施
	10月17日(金)～10月19日(日) ※17日(金)、18日(土)は休講	四大学運動競技大会
	10月25日(土)	振替授業実施(金曜日の授業を行う)
	11月1日(土)	文化祭準備(休講)
	11月2日(日)～11月3日(月)	文化祭
	11月4日(火)	文化祭後片付け(休講)
	11月8日(土)	振替授業実施(月曜日の授業を行う)
	11月24日(月)【振替休日】	授業実施
	12月25日(木)～2026年1月7日(水)	冬季休業
	1月8日(木)	授業開始
	1月20日(火)	後期授業終了
	1月21日(水)～1月30日(金)	学年末定期試験期間
	2月6日(金)～3月14日(土)	春季休業
3月23日(月)	学位記授与式(卒業式)	

■ 卒業研究

行事	日程等
卒業研究題目届提出期間 ※所定の申請フォームによるオンライン提出	10月15日(水)～11月17日(月) 16:30
卒業研究提出期間 ※WebClassを用いたオンライン提出	12月1日(月)～12月15日(月) 16:30

■ 履 修

行 事		日 程 等
抽選登録期間		4月2日(水) 9:00～4月4日(金) 16:00 ※抽選登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
抽選結果発表(自動登録)日時		4月5日(土) 12:00(予定)
履修登録期間開始 ※4月14日(月) 13:00までに一旦履修登録を行い、15日(火) 以降に再検討を行うことが望ましい。		4月5日(土) 12:00～ ※履修登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
受講者数調整のための履修登録中断期間 (中断前に登録されていた受講者を対象に受講者数調整)		4月14日(月) 13:00～4月15日(火) 9:00
履修登録期間終了	3・4年次	～4月17日(木) 13:00
	1・2年次	～4月18日(金) 13:00
後期開講科目の履修削除および追加履修登録期間		9月19日(金) 9:00～9月26日(金) 13:00
他学部聴講申請書提出期間	前 期	4月5日(土) 12:00～4月18日(金) 13:00
	後 期	9月19日(金) 9:00～9月26日(金) 13:00

社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧

■ 基礎科目

授業科目	区分
生命倫理論	基礎科目 選択C

■ 専門科目

授業科目	区分
開発政策論	【政策イノベーション学科】 専門科目 選択A
公共政策論	
グローバルガバナンス論	
戦略論	
組織論	
トップマネジメント論	【心理社会学科】 専門科目 選択B
企業評価論	
政策イノベーション特殊講義Ⅱ	
心理社会学特殊講義	【政策イノベーション学科】 専門科目 選択B
アジア社会文化論	
環境社会論Ⅱ	
現代社会福祉論	
ケアの社会学	【心理社会学科】 専門科目 選択A

■ 総合教養科目

授業科目
短期学外演習
教養演習
応用英語研究
言語コミュニケーション演習
総合講座Ⅰ・Ⅳ
特別講座Ⅰ・Ⅱ
成城学Ⅱ・Ⅴ
現代社会論Ⅴa・Ⅴb・Ⅵa・Ⅵb・Ⅷa・Ⅷb
情報社会論入門a・b
社会構造論Ⅲa・Ⅲb
宗教学入門a・b
思想・人間論Ⅲa・Ⅲb
文学入門a・b
表象文化論入門a・b
表現文化論Ⅰa・Ⅰb
歴史文化論Ⅳa・Ⅳb・Ⅴa・Ⅴb
歴史文化論演習a・b (3/31更新)
文化人類学入門a・b
空間システム論入門a・b
地域空間論Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅴa・Ⅴb
物理の世界a・b
科学史a・b
自然科学Ⅳa・Ⅳb・Ⅴa・Ⅴb
数理・自然科学演習a・b
心身論Ⅴa・Ⅴb
Japan StudiesⅠA・ⅠB・ⅡA
データサイエンス・ワークフロー・プログラム
データサイエンス特殊講義Ⅰ・Ⅳ
データアナリティクス応用
機械学習応用
数理科学応用a・b

■ 学部共通科目

授業科目
English for Practical Proficiency
Advanced Oral Interaction in English
Research Writing Skills in English [a]・[b]
英文多読a・b
海外短期語学研修(英語・就業体験準備)
海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)
日本語(中級)Ⅱ
日本語(上級)ⅣA・ⅣB

■ 一般共通科目

授業科目
テニス(C)
サイクル・スポーツ(C)
アクアエクササイズ(A)・(B)
フィットネス(A)・(B)
図書館活用法
Academic SkillsⅤA・ⅤB
European Studies A・B
North American Studies A・B

オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は、予約を取っておくとよい。また、必要に応じて、オンラインでも面談に対応するので、詳しくはメールやWebClassのメッセージ機能で問い合わせること。連絡先が不明な場合は社会イノベーション学部研究事務室へ問い合わせること。

〈オフィスアワー URL〉

<https://www.seijo.ac.jp/students/univ-system/officehour/fis.html>

※LiveCampusUログイン後のページ上部、「関連リンク」からも確認可能です。

目次

授業に関すること

I 単位制度と履修	8
II 授業	9
III 履修登録	10
IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	11
V 試験・レポート	14
VI 成績	16
VII GPA制度	17
VIII 卒業研究	18
IX 他学部聴講制度	19
X 転学部・転学科	19
XI 秋卒業制度	20
XII 卒業延期制度	21

人材育成の目的と3つの方針

…… 22

教育理念と教育の特徴

…… 28

社会イノベーション学部履修規定

【政策イノベーション学科】

I 総説	32
II 科目区分別履修方法	34
III 政策イノベーション学科授業科目一覧	48
IV 科目番号（科目ナンバリング）	52
V 卒業要件単位に算入されない授業科目	54

【心理社会学科】

I 総説	56
II 科目区分別履修方法	58
III 心理社会学科授業科目一覧	72
IV 科目番号（科目ナンバリング）	76
V 卒業要件単位に算入されない授業科目	78

全学共通教育科目

I 全学共通教育の理念	80
II 全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	84

履修系統図

…… 87

履修モデル

政策コース	94
戦略コース	95
心理コース	96
社会コース	97

社会調査士資格

…… 98

交換留学・認定留学で 修得した単位の認定

…… 99

学則・その他

…… 101

成城大学学則
成城大学学位規則
キャンパスマップ

授業に関すること

I	単位制度と履修	8
II	授 業	9
III	履修登録	10
IV	特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	11
V	試験・レポート	14
VI	成 績	16
VII	GPA制度	17
VIII	卒業研究	18
IX	他学部聴講制度	19
X	転学部・転学科	19
XI	秋卒業制度	20
XII	卒業延期制度	21

I 単位制度と履修

A 単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、4年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

- ① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを2期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目は1か年35週または半期をもって完結する。
- ② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とする。
- ③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半 期	1回	2	週1回、半期の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、半期の科目を4単位とする。
	通 年	1回	4	週1回、通年の科目を4単位とする。
外国語科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
		2回	2	週2回、半期の科目を2単位とする。
	その他	—	2	「資格英語」を2単位とする。
スポーツ・ウエルネス実技科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
	集 中	—	1	週1回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を1単位とする。
卒業研究	—	—	4	「卒業研究」を4単位とする。

※1回の授業時間（90分）は2時間に換算され、必要な学修時間から授業時間の合計を除いた時間が、予習・復習等授業時間外の学修時間の目安となる。

- ・半期週1回2単位が付与される授業の場合

45時間 × 2単位 ÷ 15週（半期） = 6時間（週当たり） - 2時間（授業時間） = 毎週授業外に4時間の学修。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定】I 総説 A 科目区分および卒業要件単位数】を参照のこと。

4 余剰単位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位・成績も付与され、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）の成績情報および成績証明書に記載される。

B 履 修

1 年次配当

授業科目には配当年次が指定されている。在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。

2 再履修

単位が修得できなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。

3 反復履修・重複履修の禁止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを反復履修、4月開講時からの1年間に同一名称の授業科目を複数履修することを重複履修と呼ぶ。いずれも、特に認められた場合を除いて禁止されている。

※授業科目の名称にはシラバスや授業時間割表などに記載されている副題（〈 〉で囲まれている部分）は含まれない。

（授業科目名称の例）

- ・「ABC演習〈XXX〉」と「ABC演習〈YYY〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- ・「英語A&B（初級）a」と「英語A&B（中級）a」は別の名称の授業科目として扱う。

4 成績評価の前提条件

当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第1項）。

Ⅱ 授 業

A 学期と授業期間

本学の授業は1年を前期・後期の2学期に分けて行われ、授業期間は下記の3つに分かれる。

通 年	前期及び後期
半 期	前期または後期
集 中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限*
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

※6時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）

なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休 講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補 講

休講により、授業の進捗が予定より遅れた際に、臨時的な授業を行うことがある。これを補講という。

補講は、原則として月～金曜日の6時限に行う。

E 講義室変更

都合により、講義室を変更する場合がある。

履修中科目の休講・補講・講義室変更等は、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）で確認ができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていないため、適宜LiveCampusUにログインして、最新の情報を確認すること。

※ LiveCampusUでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。

急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【LiveCampusU】

LiveCampusUは、学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンターの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ <https://www.seijo.ac.jp>

LiveCampusU <https://lc.seijo.ac.jp>

Ⅲ 履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、自分が履修しようとする授業科目を登録する手続きである。この手続きがなされていなければ授業科目の履修はできず、また単位も授与されない。
原則として4月に、前期・通年科目とあわせて後期科目についても登録する必要があるが、一部、特定の方法・期間にしか登録できない授業科目もあるため、1年間の履修計画を立てた上で、所定の時期に適切に履修登録を行う必要がある。(p.12 [C] その他の手続きを必要とする授業科目)

2 履修登録

LiveCampusUを利用した履修登録の方法の詳細については、履修登録マニュアル(大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可)を参照すること。

3 登録期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

4 登録時の注意点

- 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録をすること。
- 各年次の必修科目は教務部が予め登録を行っている(再履修を除く)。これらの授業科目は原則として取り消すことができない。
- 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・削除を行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
- 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講1週目の授業について】

- 教務部が予め登録している授業科目、抽選で受講が決定した授業科目については、1週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として1週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをして構わない。

5 履修登録の注意点

- 履修登録のできない授業科目**
 - 在学年次よりも上の年次に配当された授業科目
 - 教務部が予め登録している授業科目
 - すでに単位を修得した授業科目(例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと)
 - 履修するための前提条件(所定科目の履修・修得等)を満たしていない科目
- 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目**

履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- 履修科目登録上限単位数**

履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については【履修規定】Ⅰ 総説 Ⅱ 履修科目登録上限単位数を参照すること。
- 本年度登録する授業科目がない場合**

4年次生で本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずLiveCampusUの履修登録メニューに表示される学籍情報を確認のうえ、「登録して履修登録へ進む」ボタンをクリックすること。

IV

特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A 抽選登録を必要とする授業科目

1 抽選登録

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、履修登録期間の前に抽選登録が必要である。
 抽選登録の要領は以下のとおりだが、登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。
 なお、抽選登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

2 抽選登録期間・抽選結果の発表

抽選登録期間および発表日時は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
 抽選登録を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的に履修登録が行われ、不許可となったものは登録されない。抽選結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

3 抽選登録を必要とする授業科目

抽選登録を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授 業 科 目	
基礎科目必修 【再履修者のみ】	イノベーション概論 [a]・[b]	データ分析入門
	情報リテラシー	
基礎科目選択B	社会調査法	市場調査法
	心理実験法	心理研究法
専門科目	産業カウンセリング	コミュニケーション・デザイン実践演習
	社会調査専門演習	
総合教養科目	教養演習	地域空間論演習 a・b
	応用英語研究	生命科学の世界 a・b
	言語コミュニケーション演習	数理・自然科学演習 a・b
	現代社会論演習 a・b	心身論演習 a・b
	社会構造論演習 a・b	データサイエンス概論
	思想・人間論演習 a・b	データサイエンス基礎
	表現文化論演習 a・b	データアナリティクス基礎
	歴史文化論演習 a・b	機械学習基礎
学部共通科目	English for International Communication	独語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	English for Academic Settings	仏会話選択 a・b
	English for Practical Proficiency	仏語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	Innovation Studies in English [a]・[b]	スペイン語選択（初級 a・b）
	Advanced Oral Interaction in English	中国語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	Critical Reading in English [a]・[b]	韓国語会話選択 a・b
	Research Writing Skills in English [a]・[b]	韓国語選択（初級 a・b）
	Thesis Writing Skills in English [a]・[b]	ディプロム・コース（独語 a・b、仏語 a・b、スペイン語 a・b、韓国語 a・b）
	独会話選択 a・b	
一般共通科目	スポーツ・スタディーズ I~IV	図書館活用法
	ウエルネス・スタディーズ I~IV	WRD
	身体表現・スタディーズ I~IV	キャリア・ベーシック I~III
	スポーツ・ウエルネス実技科目	キャリア・プラクティス I~VI
	コンピュータ・リテラシー A1・A2、B~E	
卒業要件単位に算入されない授業科目	英語リスニング&スピーキング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	英文多読 a・b
	英語リーディング&ライティング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	
	英会話選択 a・b	

注）本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

4 登録上の注意

- ①「WRD」は科目の性質上、登録者数が受講者定員を上回った場合、受講者の決定については、1年次生を優先する。
- ②「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」はセットで履修することになっている。抽選登録をする際は、A1のみ登録する。抽選の結果、A1の履修が許可された場合、セットとなるA2のクラスも自動的に履修登録される。

5 定員に余裕がある授業科目の履修登録

抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、履修登録期間において先着順で登録を受け付ける。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

B 履修登録期間中に受講者数の調整を行う全学共通教育科目

1 対象科目

全学共通教育科目 (p.80～p.85)
 (「**A**」抽選登録科目 (p.11)」および「**C**」その他の手続きを必要とする授業科目 (p.12～13)」を除く)

2 受講者調整対象科目の決定と調整結果の発表

履修登録期間中に登録者数が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学が判断した授業科目は、受講者数の調整を行い、受講者及び定員を決定する。

日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

調整結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

なお、調整の対象となった科目、ならなかった科目、いずれも履修登録期間中は定員の範囲内で自由に削除・登録することが可能である。

C その他の手続きを必要とする授業科目

1 選考を行う授業科目

下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講1週目の授業で選考を行う(後期開講科目は後期に行う)。詳細については掲示を確認すること。

- ・「ビジネス英語a・b」

なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができない。

2 OCA

「OCA」(後期開講)を履修登録すると、前期同一曜日時限に開講される「OCA事前講義」(前期開講)も自動的に登録される。従って、本科目は前期の履修登録期間中に登録をしなければならぬ。

最初の講義時に詳細についてガイダンスを行うので、必ず出席すること。

3 資格英語

前年度以降にTOEICまたはTOEFLを受験し、一定の成績(TOEIC(対面式TOEIC-IP TESTを含む)650点以上、TOEFL-iBT68点(PBT520点、CBT190点)以上)を取得した在学中の者に対して、申請があった場合に、面接を行った上でそれまでの学修について認定し、単位を授与する。

ただし、単位の授与は2年次から4年次までの在学中1回に限る。

申請方法等については、LiveCampusUの掲示(前期(6月頃)、後期(12月頃))にて詳細を確認すること。なお、「資格英語」への履修登録は不要である。

4 海外短期語学研修・海外短期研修

4月(夏季)および10～11月(春季)に研修内容および申込方法に関する説明会を行うので、参加希望者は出席すること。説明会の予定はLiveCampusUの連絡通知等で周知する。また、研修参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。

やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

4 海外短期語学研修・海外短期研修(つづき)

海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【研修先】 アルバータ大学 (カナダ) 【期間】 8月〔約4週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
	2単位	【研修先】 オタゴ大学 (ニュージーランド) 【期間】 8月～9月〔約4週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【研修先】 ニューカッスル大学 (オーストラリア) 【期間】 2月～3月〔約4週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
	2単位	【研修先】 コロラド大学ボルダー校 (アメリカ) 【期間】 2月～3月〔約3週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (独語・春季)	2単位	【研修先】 ドレスデン工科大学 (ドイツ) 【期間】 2月～3月〔約4週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (仏語・春季)	2単位	【研修先】 西部カトリック大学 (フランス) 【期間】 2月～3月〔約3週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (中国語・夏季)	2単位	【研修先】 北京大学 (中国) 【期間】 8月～9月〔約4週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (スペイン語・夏季)	2単位	【研修先】 アルカラ大学 【期間】 8月～9月〔約3週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (スペイン語・春季)	2単位	【研修先】 アルカラ大学 【期間】 2月～3月〔約3週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。

2021年度以降入学者のみ履修可

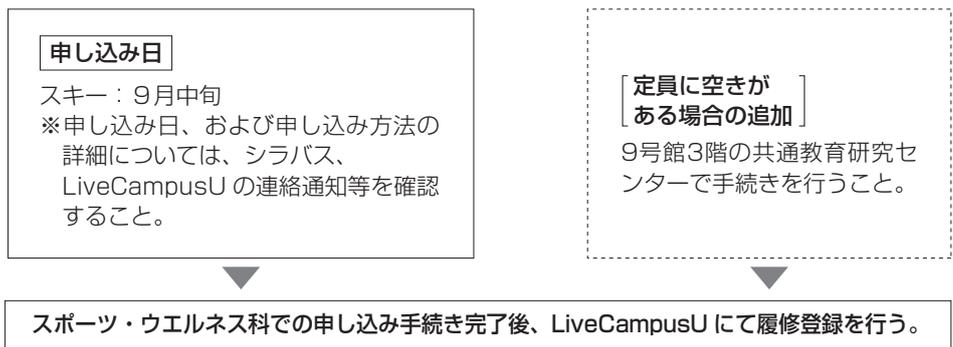
海外短期語学研修 (英語・夏季)	1単位	【研修先】 マレーシア工科大学 (マレーシア) 【期間】 8月〔約2週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
---------------------	-----	---

履修上の注意については、下記を併せて参照すること。

- ・【履修規定Ⅱ】科目区分別履修方法[E]学部共通科目《履修上の注意》⑥「海外短期語学研修」「海外短期研修」】

5 スポーツ・ウェルネス実技科目
[集中コース]

スポーツ・ウェルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、**履修登録をする前に必ずスポーツ・ウェルネス科で履修申し込みの手続きを行い、申し込み手続き完了後に履修登録を行わなければならない。**授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。
なお、やむを得ない理由によりコースが中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。



V

試験・レポート

A

試験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

① 定期試験

- 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

② 定期試験に代わるレポート…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験。

提出日・提出先等は授業科目担当者により異なる。

③ 追試験…病気その他のやむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※授業期間中に実施される試験や「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験および定期試験に代わるレポートの詳細は、LiveCampusUにて発表する。その他、授業内で課される課題（小テスト等）については、授業科目担当者より直接指示がなされる。

B

定期試験

1 注意事項

- ① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
- ② 不正行為は学則に基づき処分される。

2 試験期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

3 試験時間

原則60分とする。

4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約1週間前にLiveCampusUにて発表する。

5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、LiveCampusUにて発表する。

6 受験心得

- ① 学生証を必ず持参すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
- ② 試験場には、**定刻までに入室**すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
- ③ 試験開始後30分以内は退室できない。
- ④ 答案の氏名欄（学籍番号、氏名）と出席カードは、**ペン（鉛筆以外）**で記入すること。
- ⑤ **答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない**。また、**無記名答案は無効**となる場合があるので注意すること。

7 試験開始時間の変更および中止

小田急線の新宿から相模大野までの全区間が運行を停止した場合、気象庁から東京23区西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合、定期試験開始時刻の変更（線下実施等）あるいは定期試験を中止する場合がある。

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。
 また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

1 教務部に提出する場合

表紙

- ① 教務部で配付する「**指定の表紙**」を使用する。
- ② 表紙には必ず「**整理番号**」（LiveCampusUを参照のこと）を記入する。

提出書式

〈パソコンを使用する場合〉

横書き（A4判）

〈手書きの場合〉

提出するレポートは必ずペン（鉛筆以外）書きとすること。

- ① 原稿用紙指定の場合
横書き（A4判400字詰め） 縦書き（B4判400字詰め）
 - ② レポート用紙の場合
横書き（A4判）
- ※授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

2 教務部以外に提出する場合

提出要領

用紙等提出要領は、授業科目担当者の指示に従うこと。

D 追試験

病気その他のやむを得ない理由により、定期試験期間中に実施される「定期試験」を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる（**定期試験に代わるレポートは除く**）。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はLiveCampusUにて発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格および受付時間

- ① 病気およびケガ
 （医療機関が発行した診断書（原本）、または、これに準ずるものを添付 *当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療（療養）期間等が明記されていること。）
- ② 忌引
 （会葬礼状（原本）または死亡診断書（写し）添付 *原則として、適用日数は死亡日（または通夜・葬儀）当日を1日目と数え、血族および配偶者の場合、以下の通りとする。
 父母・配偶者・子 連続7日間、祖父母・おじ・おば・兄弟姉妹 連続5日間、曾祖父母 連続3日間、甥姪・いとこ 連続2日間。いずれも土日を含めて連続した日数。）
- ③ 交通機関の遅れ
 （遅延証明書添付 *試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。）
- ④ 就職試験当日
 （就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。）
- ⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

2 提出要領



- ① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
- ② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
- ③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、授業科目担当者の判断により、追試験を実施しないことがある。

VI 成績

1 成績評価

成績評価は、前期・後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

素点	合格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
成績証明書						
英文成績証明書	E	V	G	S	F	/

※/（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、前期成績を9月上旬頃、学年（後期）成績を3月上旬頃にLiveCampusUにて開示し、学生の学修状況把握のため、保証人に対しても開示する。開示日や保証人に対する成績開示不同意申し出についての詳細については、LiveCampusUにて周知する。

3 成績評価 問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

■ 申請受付窓口

教務部

■ 申請の条件

- ① 当該科目の授業に3分の1以上欠席していないこと（大学学則第23条第1項）。
- ② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
- ③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

■ 申請の手続きおよび受付期間

必ず申請者本人が申請すること。

- ・ 当該年度前期成績：詳細は7月にLiveCampusU等で発表する。
- ・ 当該年度学年（後期）成績：詳細は1月にLiveCampusU等で発表する。

■ 回答および結果の開示方法

教務部にて授業科目担当者からの回答を受領後、申請者へLiveCampusU等で開示する。

VII GPA制度

1 制度の概要と目的

成績評価の方法として、GPA (grade point average) 制度を実施している。GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い (=学修に要した時間の差異) が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP (grade point) に基づいて算定する。

	合 格				不合格	
素 点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「秀」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「優」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「良」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」および「/」の単位数を含む。)}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。

※GP (grade point) は「成績評定点」を、GPA (grade point average) は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

- ① カリキュラム上卒業要件単位として認められていない授業科目
- ② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
- ③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をLiveCampusUの成績ダッシュボードに表示し、成績通知書および成績証明書に記載する。

5 留 意 事 項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、履修している授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

VIII

卒業研究

A 中間発表会

卒業研究を提出しようとする学生は、その作成に当たり、中間発表会で研究のテーマ、問題意識、構成等について途中経過を報告しなければならない。中間発表会は6月初旬～7月中旬を予定しているが、詳細については別途掲示する。

B 卒業研究題目届

卒業研究を提出するためには、あらかじめ所定の期間に卒業研究題目届を提出しなければならない。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。この期間に提出された題目が正式なものとして成績証明書へ記載される。

C 卒業研究提出要領

1 提出期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
※ 卒業研究は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること（郵送不可）。

2 最終試問

1月中下旬に面接試問を行う。期日、時間等、詳細については、1月に別途掲示する。

3 提出方法

- ① WebClassを用いたオンライン提出のみとする。
- ② WebClass上に学科毎に「〇〇学科卒業研究提出用コース」が設置されており、コース内の「テスト/アンケート」のところに「〇〇学科卒業研究提出」が設置されているので、そちらに提出すること。
- ③ 提出者には提出した旨の自動応答メールが届くので、必ず確認し、応答メールが届かない場合は再提出すること。応答メールが届かない場合は、応答メールが「迷惑メール」分類されていないのかもよく確認すること。
- ④ WebClassの設定上、期間内であれば何度でも提出可能だが、提出のたびに新しい提出ファイルに置き換わる（上書きされる）ので注意すること。

4 書式

- ① ファイル形式
 - ・ 卒業研究の提出形式はPDFのみとする。
 - ・ WebClassで1回に送信できるPDFファイルの容量の上限は40MBなので容量を超えないよう注意すること。
 - ・ 40MBを超える場合は、早めに教務課に相談すること。
- ② ファイル名
「指導教員名」「学籍番号」「学生氏名」を、空白（スペース）を入れずに明記すること（例：成城太郎先生22N7777成城花子）。
- ③ レイアウト（用紙）
 - ・ 用紙の設定はA4判とし、原則として各ページ1行40字×30行とすること。
 - ・ 目次の末尾に字詰を注記すること（例：横40字×縦30行）。

5 表紙

表紙のページには、以下の必要事項を記載すること。

- ・ 卒業年度（本年度は、2025年度）
- ・ 所属ゼミ名（ゼミナール担当教員名）
- ・ 題目
- ・ 学部・学科
- ・ 学籍番号
- ・ 氏名

6 その他

指導教員より、別途追加の指示がある場合には、その指示に従うこと。

D 卒業研究の開示

提出された卒業研究は、本学部の教員や学生、および社会イノベーション学部長が許可する者であれば、誰でも閲覧可能とする。

Ⅸ 他学部聴講制度

- | | |
|-----------|--|
| 1 制度の概要 | 所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。 |
| 2 聴講可能科目 | LiveCampusU等にて発表する。 |
| 3 聴講可能科目数 | 年間2科目まで |
| 4 手続き方法 | 「他学部聴講願」に必要事項を記入の上、教務部に提出すること。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。 |
| 5 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ① 聴講可能な科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。 ② 他学部聴講は、教授会での審議によっては、認められない場合がある。 |

X 転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。

各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、LiveCampusUにて案内するので、各自確認すること。なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。

また、転学部・転学科を希望する者は、掲載されている転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

XI 秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在籍し、3月に行われた卒業判定の結果、大学学則第18条に規定する卒業要件をみだすことができず、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

* 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【[ⅩⅢ 卒業延期制度](#)】を参照すること。

2 制度の注意点

① 秋（9月）で自動的に卒業となる。

本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、**秋（詳細な日付はLiveCampusU等で発表する。）で自動的に卒業となるので十分注意すること。**

※履修科目登録上限単位数、卒業確定者発表日等は別途案内する。

② 年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、**今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。**申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

③ 「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。

④ 秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。

「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤ 校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。

また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。

※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑥ 秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。

就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

1 制度の概要 (目的)

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し在学することを認める制度である。

卒業を延期することができる期間は、1年(※)ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生(以下、「卒業延期適用者」)が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。

※ 1年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業(以下「繰上卒業」)することができる。

2 対象者 (資格要件)

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。

- ① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- ② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第5条第2項に規定する年数(8年)を超えないこと。
- ③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度(卒業延期適用者にあつては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ)の以下の期日(当該日が休日の場合はその前日)までに卒業延期願を提出し、2月下旬ないし9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。

- ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2月15日
- ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 7月末日

② 前項により卒業の延期を許可された学生(以下「卒業延期者」)に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。

③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、3月10日(当該日が休日の場合はその前日)までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。

④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日(当該日が休日又は土曜日に当たるときは、その前日)までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末または前期末での卒業とする。

- ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 3月20日
- ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 9月13日

⑤ 繰上卒業を希望する学生は、7月末日までに繰上卒業願を提出し、9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および提出先

1号館1階 教務部

5 申請期間

申請期間等の詳細はLiveCampusU等で発表する。

6 その他

- ・ 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
- ・ 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学が認められた場合であっても、休学期間中の学費の減額は認められない。
- ・ 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。

学年末をもって卒業要件を満たした者

授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の7割

前期末をもって卒業要件を満たした者

授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の3割5分

※ その他の納付金である父母の会費、学友会費、学会費については、減額の対象とはならない。

社会イノベーション学部の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

社会イノベーション学部は、社会に持続した発展をもたらす人間の創造活動であるイノベーションについて学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的また実践的な言語能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会イノベーション学部において学んだ学生は、本学部の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1)「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置する；
 - (2)「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3)「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；
 - (4)「学部共通科目」
英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；
 - (5)「一般共通科目」
情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入りに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題の発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 政策イノベーション学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

政策イノベーション学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの創出・推進について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

政策イノベーション学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの創出・推進に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「政策系科目」と「戦略系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；
 - (4) 「学部共通科目」
英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；
 - (5) 「一般共通科目」
情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入りに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 心理社会学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

心理社会学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理社会学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「心理系科目」と「社会系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；
 - (4) 「学部共通科目」
英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；
 - (5) 「一般共通科目」
情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入りに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

教育理念と教育の特徴

教育理念と 教育目的

成城学園は、1917（大正6）年、澤柳政太郎博士による成城小学校の創設をもってその起源としている。文部次官、東北帝国大学総長、京都帝国大学総長を歴任し、当時の教育界において指導的役割を果たしていた澤柳政太郎がこの小学校創設で目指したのは、画一的教育を排した「生きた教育」であり、創設にあたっては自ら次の4つの「希望理想」を掲げた。

- (ア) 個性尊重の教育
- (イ) 自然と親しむ教育
- (ウ) 心情の教育
- (エ) 科学的研究を基とする教育

この考え方は、当初、もっぱら児童への教育を念頭において掲げられたものであるが、当時としては革新的な内容であり、しかも現在の教育界においても十分に通用する普遍的内容を有している。この4つの目標を貫くのは、上からの「注入教育、つめ込み教育」、頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成していくという教育理念である。成城大学では学園創設以来の個性と自発性を重んじた自由な教育という教育理念を、「全人教育」、「少数者教育」という具体的な形で終始一貫して実践してきている。

このような教育理念を持つ成城大学が、21世紀の社会のあり方を決定づける最重要な要因であるイノベーションの発生から普及までのメカニズムを分析し、広く高等教育として提供することを目的として設置したのが、社会イノベーション学部である。

成城大学では社会イノベーション学部の設置を国のイノベーション・システムの一翼を担う大学としての大きな責務であると同時に、成城大学がこれまで培ってきた教育理念が如何なく発揮される場とも考える。それはイノベーションという問題を教育研究対象として取り上げるためには、多くの学問分野から多角的に検討し、問題点を発見し、分析し、そして解決策を見出すという問題発見から問題解決までを一連のプロセスとして教育する問題志向型の教育が求められるからである。このような問題志向型の教育というのは、「頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成する」という教育理念なくしては達成できないからである。

成城大学社会イノベーション学部では、イノベーションを科学的発見や技術的発明という次元からだけではなく、イノベーションを社会的行為として社会科学の視点からとらえ、その知識創造、知識活用プロセスに参画する国や企業の側面（政策・戦略の側面）と、イノベーションの遂行や普及を個人や社会の側面（心理・社会の側面）の両面から教育研究することをその教育目的とする。

社会イノベーション学部の教育は、自ら問題を見つけ出し、分析し、解決策を考えるという問題志向型の教育であるために、4年次のゼミナールⅡでの卒業研究指導、またそれによりどのような卒業研究が行われたかということが、最終的な学部教育での成果となる。

そのために、1、2年次では語学力、分析力、そしてイノベーションに密接に関連する既存学問領域の学習を通じて基礎学力の養成を目的としたカリキュラムとする。

語学力という点では、特に「使える英語力」の養成に努める。英語は現在、コミュニケーション手段として世界共通言語になっているが、社会イノベーション学部では英語をコミュニケーション手段としてだけでなく、生活習慣、文化様式といった言葉として表現されているものの社会・文化的背景をも踏まえて理解できる水準に達するまでの教育を行う。分析力の養成については1年次のデータ分析、2年次からの社会調査、市場調査に関する各種講義を通じて調査理論と分析手法の両方について学ぶ。また政策、戦略、心理、社会という4つの視点からイノベーションを考えるという学部の基本コンセプトから、イノベーションに関係する基礎的な既存学問領域として、経済学、政策学、行政学、国際関係学、経営学、心理学、社会学、社会心理学を配置し、履修させる。

2年次から開始される各学科の専門科目においては、現在行われている先端的な分野についての教育が中心となる。国のイノベーション政策、イノベーションの経済的分析、イノベーションを支える金融システム、グローバルガバナンスといったイノベーションに関する国レベルと国際レベルの政策問題を取り扱う「政策系科目」、現代企業の特長、企業のイノベーション戦略、組織変革、企業評価、研究開発戦略といったイノベーションの実行主体である企業の戦略行動に焦点を当てる「戦略系科目」、イノベーションの普及過程、認知心理、パーソナリティ、メディアイノベーションといったイノベーションが人間個人の心理と行動に及ぼす影響を考える「心理系科目」、イノベーションが普及することにより社会や文化が受ける影響を社会システム、社会変動、人間生活、文化、宗教、社会慣習といったそれぞれの観点から考える「社会系科目」とから構成する。

また高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ十分正しい方向に発揮される。この認識の下に、1年次からテーマ別に教養教育科目を配置することにより広く興味を持って教養関連科目を履修できるように工夫し、また少人数教育という成城大学の特徴を1年次から活かすためにゼミナール形式の授業である教養演習の充実も図り、情報発信できる日本語能力の向上にも配慮している。

政策イノベーション学科では、国や企業がその行動主体となり、知識創造、知識活用を行い、最終的には産業創造や、市場創造に結びつくイノベーションの持つ「創造」の側面に教育の重点が置かれる。すなわち、イノベーションに関する政策や戦略の問題について教育を行う。

政策に関してはまず科学技術政策、および金融政策、公共政策などの経済政策をはじめとする国の政策や法律等のイノベーション創出のためのインフラにあたる国や国際レベルの問題が取り扱われる。企業レベルの問題ではイノベーションを生み出すための企業の経営戦略の策定とその遂行を中心とした問題が取り扱われる。

心理社会学科では、個人の創造性開発を始め、イノベーションが認知、採用され、最終的に社会全体にどのように普及し、どのような社会的変容をもたらすかという、イノベーションが人間の心理や行動、そして社会や文化へ与える影響、すなわち「支援・普及」の側面に焦点を当てた教育を行う。

人間心理に関しては、イノベーションがどのように個人に認知され、普及するのか、また個人における創造性の開発などの問題が取り扱われる。社会レベルではメディア等を通じて伝播されたイノベーションが社会のあり方をどのように変化させるか、またインターネット等の普及が地域の社会意識、社会構造、ひいては文化にどのような影響を及ぼしているのか、また逆に宗教や文化がイノベーションに与える影響といった問題が取り扱われる。

また、イノベーションに関する効果的な政策や戦略という問題を考えるには、イノベーションの人間心理に与える影響、さらにイノベーションの社会全体や文化に及ぼす影響といった社会・文化に根ざす問題の考察を抜きにしては考えることはできないし、逆にイノベーションの人間心理や社会に与える影響を考察するためには、国や企業といった活動主体の政策や戦略の理解が必要不可欠であることから、両学科とも、いずれの領域の専門科目とも一定単位以上履修することを義務づけている。

履修規定

政策イノベーション学科

I 総 説	32	D. 総合教養科目	40
A. 科目区分および卒業要件単位数	32	教養演習	
1) 科目区分		E. 学部共通科目	44
2) 卒業要件単位数		F. 一般共通科目	46
B. 履修科目登録上限単位数	32	1) スポーツ・ウエルネス教育科目	
1) 履修科目登録上限単位数制度		2) IT 科目	
2) 履修科目登録上限単位数		3) WRD	
C. コース認定制度	33	4) キャリアデザイン科目	
D. 2年次から3年次への進級基準	33	III 政策イノベーション学科	
		授業科目一覧	48
II 科目区分別履修方法	34	IV 科目番号 (科目ナンバリング)	52
A. 外国語科目	34	V 卒業要件単位に算入されない	
1) 必 修		授業科目	54
2) TOEIC IP テスト			
3) 未修得科目の再履修			
B. 基礎科目	35		
1) 必 修			
2) 選 択			
C. 専門科目	37		
1) 必 修			
2) 選択A・B			
3) OCA			
4) コース制度			

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**126単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 政策イノベーション学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注3) 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

- ① 各年次毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。
※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。
- ② 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ③ 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
- ④ 1年次後期より、学部に設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：

前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上（1年次生は前期GPA2.8以上）し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者は所定の期間（別途、掲示にて告知）に教務部に申請すること。

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

		授業科目	単位数
1年次必修科目	外国語科目	English I: Skills for Learning [a]	1
		English I: Skills for Learning [b]	1
		English I: Social Interaction [a]	1
		English I: Social Interaction [b]	1
		English I: Academic Interaction [a]	1
		English I: Academic Interaction [b]	1
		English I: Reading and Writing [a]	1
		English I: Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論 [a]	2
		イノベーション概論 [b]	2
情報リテラシー		2	
データ分析入門		2	
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール（政策）	いずれか 2
		基礎ゼミナール（戦略）	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目（卒業要件外単位を除く）			15
合計			33

II 科目区分別履修方法

A 外国語科目

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業要件単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授 業 科 目	配当年次	規定単位数	主な技能
必修	English I: Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I: Skills for Learning [b]		1	
	English I: Social Interaction [a]		1	リスニング スピーキング
	English I: Social Interaction [b]		1	
	English I: Academic Interaction [a]		1	
	English I: Academic Interaction [b]		1	
	English I: Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I: Reading and Writing [b]		1	
	English II: Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II: Presentation and Discussion		1	
	English II: Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II: Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II: Business Reading and Writing [a]		1	
	English II: Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

1 必 修

1年次には、「English I: Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I: Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I: Social Interaction [a]/[b]」と「English I: Academic Interaction [a]/[b]」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II: Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II: Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II: Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II: Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返しトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位を修得している必要がある。

2年次後期の「English II: Presentation and Discussion」は、前期の「English II: Public Speaking」が合格又は認定の場合に限り履修可能である。LiveCampusUの履修登録画面上には、「English II: Presentation and Discussion」が表示されるが、「English II: Public Speaking」の単位が未修得の場合は、前期の成績確定後に、教務部が「English II: Presentation and Discussion」の登録を削除する。また、「English II: Business Reading and Writing [b]」は、履修年度（単位を取得しようとする年度）のTOEICスコアが450点

に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

※2021年度をもって「English I : Social Interaction」及び「English I : Academic Interaction」が廃講となり、2022年度に「English I : Social Interaction [a]/[b]」及び「English I : Academic Interaction [a]/[b]」が新設された。旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

2 TOEIC IP テスト

本学部学生には、1年次から3年次までの各年次において、学内で実施するTOEIC IPテスト、または学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを年1回受験することを義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。

また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目である「English II : Business Reading and Writing [b]」については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

本学部で実施されるTOEIC IPテストの受験手続きに関する情報、および本学部で実施されるTOEIC IPテスト以外により獲得したスコアの申告に関する情報は、別途掲示して通知する。

3 未修得科目の 再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次配当）を履修すること。

B 基礎科目

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第5表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

1 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授 業 科 目	配当年次	単 位
イノベーション概論 [a]	1	2
イノベーション概論 [b]	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
2023年度	イノベーション概論 [a]	イノベーション概論
	イノベーション概論 [b]	科学技術と社会

2 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となる授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考
選択A	経済学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	国際関係学*	1~2	4	
	政策学*	1~2	2	
	行政学*	1~2	2	
	経営学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	心理学	1~2	4	
	社会学	1~2	4	
選択B	社会調査法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
	市場調査法	2~4	4	
	心理研究法	2~4	4	
選択C	エコロジー論	1~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
	地域と文化	1~4	4	

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」及び「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、学部共通科目に充当することができる。

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第8表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表 専門科目規定単位数

科目区分		規定単位数
専門科目	必修	16
	選択A	32
	選択B	14
計		62

1 必修

専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授業科目	配当年次	単位
基礎ゼミナール（政策）	2	2
基礎ゼミナール（戦略）	2	2
ゼミナールⅠ	3	4
ゼミナールⅡ	4	4
卒業研究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【[授業に関すること](#)】[Ⅷ](#)卒業研究を参照すること。

2 選択A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、及び学科共通科目に分かれる。

選択Bは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、及び学科共通科目に分かれる。

選択A及び選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位	
選択A	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅱ	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		日本経済論	2~4	2	地域イノベーション論	3・4	4
		日本金融論	2~4	2			
		国際協力・開発イノベーション論	2~4	4			
		開発政策論	2~4	2			
		開発支援論	2~4	2			
	国際法	2~4	4				
	地域政策論	2~4	4				
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		イノベーション・マーケティング	2~4	2	トップマネジメント論	3・4	2
		イノベーションとマーケティング・リサーチ	2~4	2	企業評価論	3・4	4
		企業家史	2~4	4	アントレプレナーシップ&リーダーシップ	3・4	2
		組織イノベーション論	2~4	4			
		グローバル・イノベーション・マネジメント論	2~4	4			
		消費行動論	2~4	2			
	アート、デザインとクリエイティビティ	2~4	2				
	学科共通科目	OCA	2~4	2			
		イノベーション・マネジメント実践演習	2~4	2			
		コミュニケーション・デザイン実践演習	2~4	2			
政策イノベーション特殊講義Ⅰ		2~4	2				
政策イノベーション特殊講義Ⅱ	2~4	2					
選択B	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学Ⅰ	2~4	2	意思決定論	3・4	2
		認知心理学Ⅱ	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	ワークプレイス論	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	対人コミュニケーション論	3・4	4
		異文化間心理学	2~4	2	認知言語学	3・4	4
					ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
	社会系科目				産業カウンセリング	3・4	4
		イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論Ⅰ	3・4	2
		社会システム論	2~4	4	宗教社会論Ⅱ	3・4	2
		日本社会文化論Ⅰ	2~4	2	社会人類学	3・4	2
		日本社会文化論Ⅱ	2~4	2	NGO・NPO論	3・4	2
		アジア社会文化論	2~4	4	社会調査専門演習	3・4	4
		アメリカ社会文化論Ⅰ	2~4	2			
		アメリカ社会文化論Ⅱ	2~4	2			
		現代国際社会学	2~4	4			
		異文化間コミュニケーション論Ⅰ	2~4	2			
		異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2			
		環境社会論Ⅰ	2~4	2			
		環境社会論Ⅱ	2~4	2			
		現代社会福祉論	2~4	2			
		ケアの社会学	2~4	2			
科目 学科共通	心理社会学特殊講義	2~4	2				

履修規定
政策イノベーション学科

《履修上の注意》

- ① 選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**に充当することができる。
- ② 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

日本経済論 (4/3 更新)	日本金融論 (4/3 更新)	コミュニケーション・デザイン実践演習
産業カウンセリング	社会調査専門演習	

- ③ 2020年度より「政策イノベーション特殊講義」は「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」に科目名称が変更された。旧科目の単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ④ 2020年度に「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」が新設された。
- ⑤ 2022年度に以下のように授業科目が変更された。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
認知心理学Ⅰ	認知心理学
認知心理学Ⅱ	
日本社会文化論Ⅰ	日本社会文化論
日本社会文化論Ⅱ	
アメリカ社会文化論Ⅰ	アメリカ社会文化論
アメリカ社会文化論Ⅱ	
現代社会福祉論	生活福祉論
ケアの社会学	
宗教社会論Ⅰ	宗教社会論
宗教社会論Ⅱ	

- ⑥ 2022年度をもって、「不動産開発論」、「都市開発論」、および「ロジスティクス論」は廃講となった。なお、修得済みの単位は専門科目選択Aの単位として認められる。
- ⑦ 2023年度に「地域イノベーション論」、「コミュニケーション・デザイン実践演習」が新設された。
- ⑧ 2023年度より「社会イノベーション特殊演習」は「イノベーション・マネジメント実践演習」に科目名称が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ⑨ 2024年度に「アート、デザインとクリエイティビティ」、「アントレプレナーシップ&リーダーシップ」が新設された。
- ⑩ 2024年度に「金融イノベーション論Ⅱ」、「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」、「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」、および「心理社会学特殊講義」の配当年次が変更された。
- ⑪ 2025年度に「現代企業論」は「イノベーション・マーケティング」と「イノベーションとマーケティング・リサーチ」に授業科目が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。

3 OCA

選択A学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

※ 「OCA事前講義」及び「OCA」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。**

※ 「OCA」は同一年度に「キャリア・エクスペリエンス」と並行して履修することはできない。

4 コース制度

専門科目の選択A及び選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説 Ⅲコース認定制度】及び【**履修モデル**】を参照すること。

D

総合教養科目

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが総合教養科目である。この科目区分の授業科目は第11表のとおりである。卒業要件単位数は12単位である。

なお、総合教養科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれている。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第11表 総合教養科目

分野	授 業 科 目	配当年次	単位	分野	授 業 科 目	配当年次	単位	
	短期学外演習	1~4	2	全学共通教育科目 教養科目群	国際関係論入門 a	1~4	2	
	教養演習	1~4	4		国際関係論入門 b	1~4	2	
	応用英語研究	3・4	4		経済学入門 a	1~4	2	
	言語コミュニケーション演習	3・4	4		経済学入門 b	1~4	2	
全学共通教育科目 総合科目	総合講座Ⅰ	1~4	2		全学共通教育科目 社会構造論系列	政治学入門 a	1~4	2
	総合講座Ⅱ	1~4	2			政治学入門 b	1~4	2
	総合講座Ⅲ	1~4	2			情報社会論入門 a	1~4	2
	総合講座Ⅳ	1~4	2			情報社会論入門 b	1~4	2
	総合講座Ⅴ	1~4	2			法学（含む日本国憲法）a	1~4	2
	総合講座Ⅵ	1~4	2			法学（含む日本国憲法）b	1~4	2
	特別講座Ⅰ	1~4	2			社会構造論Ⅰa	1~4	2
	特別講座Ⅱ	1~4	2			社会構造論Ⅰb	1~4	2
全学共通教育科目 成城学	成城学園を知る	1~4	2			社会構造論Ⅱa	1~4	2
	成城学Ⅰ	1~4	2			社会構造論Ⅱb	1~4	2
	成城学Ⅱ	1~4	2			社会構造論Ⅲa	1~4	2
	成城学Ⅲ	1~4	2			社会構造論Ⅲb	1~4	2
	成城学Ⅳ	1~4	2		社会構造論Ⅳa	1~4	2	
全学共通教育科目 現代社会論系列 (系列科目)	成城学Ⅴ	1~4	2		全学共通教育科目 思想・人間論系列	社会構造論Ⅳb	1~4	2
	社会学入門 a	1~4	2			社会構造論Ⅴa	1~4	2
	社会学入門 b	1~4	2			社会構造論Ⅴb	1~4	2
	メディア論入門 a	1~4	2	社会構造論Ⅵa		1~4	2	
	メディア論入門 b	1~4	2	社会構造論Ⅵb		1~4	2	
	現代社会論Ⅰa	1~4	2	社会構造論演習 a		1~4	2	
	現代社会論Ⅰb	1~4	2	社会構造論演習 b		1~4	2	
	現代社会論Ⅱa	1~4	2	哲学入門 a		1~4	2	
	現代社会論Ⅱb	1~4	2	哲学入門 b		1~4	2	
	現代社会論Ⅲa	1~4	2	宗教学入門 a		1~4	2	
	現代社会論Ⅲb	1~4	2	宗教学入門 b		1~4	2	
	現代社会論Ⅳa	1~4	2	倫理学入門 a		1~4	2	
	現代社会論Ⅳb	1~4	2	倫理学入門 b	1~4	2		
	現代社会論Ⅴa	1~4	2	西洋思想入門 a	1~4	2		
	現代社会論Ⅴb	1~4	2	西洋思想入門 b	1~4	2		
	現代社会論Ⅵa	1~4	2	東洋思想入門 a	1~4	2		
	現代社会論Ⅵb	1~4	2	東洋思想入門 b	1~4	2		
	現代社会論Ⅶa	1~4	2	日本思想入門 a	1~4	2		
	現代社会論Ⅶb	1~4	2	日本思想入門 b	1~4	2		
	現代社会論Ⅷa	1~4	2	全学共通教育科目 思想・人間論系列 (系列科目)	思想・人間論Ⅰa	1~4	2	
現代社会論Ⅷb	1~4	2	思想・人間論Ⅰb		1~4	2		
現代社会論Ⅷa	1~4	2	思想・人間論Ⅱa		1~4	2		
現代社会論Ⅷb	1~4	2	思想・人間論Ⅱb		1~4	2		

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位				
全学共通教育科目 教養科目群(系列科目)	思想・人間論系列 展開	思想・人間論Ⅲa	1~4	2	全学共通教育科目 教養科目群(系列科目)	基幹	文化人類学入門 a	1~4	2		
		思想・人間論Ⅲb	1~4	2			文化人類学入門 b	1~4	2		
		思想・人間論演習 a	1~4	2			空間システム論入門 a	1~4	2		
		思想・人間論演習 b	1~4	2			空間システム論入門 b	1~4	2		
	表現文化論系列 展開	基幹	文学入門 a	1~4		2	地域空間論系列 展開	展開	地域空間論Ⅰa	1~4	2
			文学入門 b	1~4		2			地域空間論Ⅰb	1~4	2
			言語学入門 a	1~4		2			地域空間論Ⅲa	1~4	2
			言語学入門 b	1~4		2			地域空間論Ⅲb	1~4	2
			音楽入門 a	1~4		2			地域空間論Ⅳa	1~4	2
			音楽入門 b	1~4		2			地域空間論Ⅳb	1~4	2
			表象文化論入門 a	1~4		2			地域空間論Ⅴa	1~4	2
			表象文化論入門 b	1~4		2			地域空間論Ⅴb	1~4	2
		展開	表現文化論Ⅰa	1~4		2		地域空間論Ⅵa	1~4	2	
			表現文化論Ⅰb	1~4		2		地域空間論Ⅵb	1~4	2	
			表現文化論Ⅱa	1~4		2		地域空間論Ⅶa	1~4	2	
			表現文化論Ⅱb	1~4		2		地域空間論Ⅶb	1~4	2	
			表現文化論Ⅲa	1~4		2		地域空間論Ⅷa	1~4	2	
			表現文化論Ⅲb	1~4		2		地域空間論Ⅷb	1~4	2	
			表現文化論Ⅳa	1~4		2		地域空間論演習 a	1~4	2	
			表現文化論Ⅳb	1~4		2		地域空間論演習 b	1~4	2	
歴史文化論系列 展開	基幹	表現文化論Ⅴa	1~4	2	数理・自然科学系列 展開	基幹	数理の世界 a	1~4	2		
		表現文化論Ⅴb	1~4	2			数理の世界 b	1~4	2		
		表現文化論Ⅵa	1~4	2			物理の世界 a	1~4	2		
		表現文化論Ⅵb	1~4	2			物理の世界 b	1~4	2		
		表現文化論演習 a	1~4	2			化学の世界 a	1~4	2		
		表現文化論演習 b	1~4	2			化学の世界 b	1~4	2		
		歴史学入門 a	1~4	2			生命科学の世界 a	1~4	2		
		歴史学入門 b	1~4	2			生命科学の世界 b	1~4	2		
	展開	日本近現代史 a	1~4	2		科学史 a	1~4	2			
		日本近現代史 b	1~4	2		科学史 b	1~4	2			
		ヨーロッパ近現代史 a	1~4	2		自然科学Ⅰa	1~4	2			
		ヨーロッパ近現代史 b	1~4	2		自然科学Ⅰb	1~4	2			
		アジア近現代史 a	1~4	2		自然科学Ⅱa	1~4	2			
		アジア近現代史 b	1~4	2		自然科学Ⅱb	1~4	2			
		アメリカ近現代史 a	1~4	2		自然科学Ⅲa	1~4	2			
		アメリカ近現代史 b	1~4	2		自然科学Ⅲb	1~4	2			
展開	歴史文化論Ⅰa	1~4	2	心身論系列 展開	基幹	自然科学Ⅳa	1~4	2			
	歴史文化論Ⅰb	1~4	2			自然科学Ⅳb	1~4	2			
	歴史文化論Ⅱa	1~4	2			自然科学Ⅴa	1~4	2			
	歴史文化論Ⅱb	1~4	2			自然科学Ⅴb	1~4	2			
	歴史文化論Ⅲa	1~4	2		数理・自然科学演習 a	1~4	2				
	歴史文化論Ⅲb	1~4	2		数理・自然科学演習 b	1~4	2				
	歴史文化論Ⅳa	1~4	2		こころと身体 a	1~4	2				
	歴史文化論Ⅳb	1~4	2		こころと身体 b	1~4	2				
	歴史文化論Ⅴa	1~4	2		身体と運動・スポーツ a	1~4	2				
	歴史文化論Ⅴb	1~4	2		身体と運動・スポーツ b	1~4	2				
	歴史文化論演習 a	1~4	2		心身論Ⅰa	1~4	2				
	歴史文化論演習 b	1~4	2		心身論Ⅰb	1~4	2				

履修規定

政策イノベーション学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目 教養科目群 (系列科目)	心身論系列 展開	心身論Ⅱa	1~4	2	全学共通教育科目 テーマを扱った科目 英語等による特定の 国際交流科目群	Special Topics I A	1~4	2
		心身論Ⅱb	1~4	2		Special Topics I B	1~4	2
		心身論Ⅲa	1~4	2		Special Topics II A	1~4	2
		心身論Ⅲb	1~4	2		Special Topics II B	1~4	2
		心身論Ⅳa	1~4	2		Special Topics III A	1~4	2
		心身論Ⅳb	1~4	2		Special Topics III B	1~4	2
		心身論Ⅴa	1~4	2		Special Topics IV A	1~4	2
		心身論Ⅴb	1~4	2		Special Topics IV B	1~4	2
		心身論演習 a	1~4	2		Special Topics V A	1~4	2
		心身論演習 b	1~4	2		Special Topics V B	1~4	2
全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A	1~4	2				
		Japan Studies I B	1~4	2				
		Japan Studies II A	1~4	2				
		Japan Studies II B	1~4	2				
		Japan Studies III A	1~4	2				
		Japan Studies III B	1~4	2				
		Japan Studies IV A	1~4	2				
		Japan Studies IV B	1~4	2				
		Japan Studies V A	1~4	2				
		Japan Studies V B	1~4	2				
		Japan Studies VI A	1~4	2				
		Japan Studies VI B	1~4	2				
		Japan Studies VII A	1~4	2				
		Japan Studies VII B	1~4	2				
		Japan Studies VIII A	1~4	2				
Japan Studies VIII B	1~4	2						
Japan Studies IX A	1~4	2						
Japan Studies IX B	1~4	2						

【2022年度以降入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	リテラシー科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
	応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2~4 2
		機械学習基礎	2~4 2
	アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
		データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 I	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 II	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 III	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 IV	2~4 2
	選択科目	データアナリティクス応用	2~4 2
		機械学習応用	2~4 2
		数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
数理科学応用 b	1~4 2		

履修規定
政策イノベーション学部

【2021年度以前入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	基礎科目	データサイエンス概論	1～4 2
		データサイエンス基礎	1～4 2
		データアナリティクス基礎	2～4 2
		データアナリティクス応用	2～4 2
	発展科目	機械学習基礎	2～4 2
		データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4 2
	選択科目	数理科学基礎 a	1～4 2
		数理科学基礎 b	1～4 2
		数理科学応用 a	1～4 2
		数理科学応用 b	1～4 2

《履修上の注意》

- ① 総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目に充当することができる。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ③ 「短期学外演習」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。
- ④ 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」及び「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することができない。
- ⑤ 2021・2022年度開講の「特別講座Ⅱ」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 2021年度をもって、「数理科学Ⅰa・b」、「数理科学Ⅱa・b」は廃講となった。修得済みの単位は総合教養科目の単位として認められる。
- ⑦ 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

- ⑧ 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- ⑨ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑩ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑪ 2022年度に「数理科学基礎a・b」、「数理科学応用a・b」が新設された。
- ⑫ 2023年度に「Special TopicsⅤA・B」が新設された。
- ⑬ 2024年度に「Japan StudiesⅨA・B」が新設された。

教養演習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位に算入することができるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目及び英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目の卒業要件単位数は**6単位**であり、授業科目は**第12表**のとおりである。なお、学部共通科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれており、全学共通教育の理念等は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位		
全学共通教育科目 リテラシー科目群	English for International Communication	2~4	2	全学共通教育科目 リテラシー科目群	ディプロム・コース中級(独語) a	1~4	1		
	English for Academic Settings	2~4	2		ディプロム・コース中級(独語) b	1~4	1		
	English for Practical Proficiency	2~4	2		ディプロム・コース上級(独語) a	1~4	1		
	Innovation Studies in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(独語) b	1~4	1		
	Innovation Studies in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(仏語) a	1~4	1		
	Advanced Oral Interaction in English	2~4	2		ディプロム・コース中級(仏語) b	1~4	1		
	Critical Reading in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) a	1~4	1		
	Critical Reading in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) b	1~4	1		
	Research Writing Skills in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) a	1~4	1		
	Research Writing Skills in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) b	1~4	1		
	Thesis Writing Skills in English [a]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) a	1~4	1		
	Thesis Writing Skills in English [b]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) b	1~4	1		
	資格英語	2~4	2		全学共通教育科目 国際交流科目群	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	
全学共通教育科目 外国語科目 リテラシー科目群	ビジネス英語a	1~4	1	海外短期語学研修(英語・夏季)		1~4	2		
	ビジネス英語b	1~4	1	海外短期語学研修(独語・春季)		*	2		
	独会話選択a	1~4	1	海外短期語学研修(仏語・春季)		*	2		
	独会話選択b	1~4	1	海外短期語学研修(中国語・夏季)		1~4	2		
	独語選択(初級) Ia	1~4	1	海外短期語学研修(スペイン語・春季)		*	2		
	独語選択(初級) Ib	1~4	1	海外短期語学研修(スペイン語・夏季)		1~4	2		
	独語選択(初級) IIa	1~4	1	海外短期語学研修(英語・夏季)		1~4	1		
	独語選択(初級) IIb	1~4	1	海外短期語学研修(英語・就業体験準備) [2021年度以降入学者のみ履修可]		1~4	1		
	独語選択(中級) a	1~4	1	海外短期語学研修(英語・就業体験準備) [2020年度以前入学者のみ履修可]		1~4	1		
	独語選択(中級) b	1~4	1	海外短期研修(マレーシア・就業体験研修) [2020年度以前入学者のみ履修可]		1~4	2		
	独語選択(上級) a	1~4	1	全学共通教育科目 国際交流科目群		受け入れ留学生科目	日本語(初級1) I	交換留学生等	2
	独語選択(上級) b	1~4	1				日本語(初級1) II	交換留学生等	2
	仏会話選択a	1~4	1		日本語(初級2) I		交換留学生等	2	
仏会話選択b	1~4	1	日本語(初級2) II		交換留学生等		2		
仏語選択(初級) Ia	1~4	1	日本語(初級2) III		交換留学生等		2		
仏語選択(初級) Ib	1~4	1	日本語(中級) I		交換留学生等		2		
仏語選択(初級) IIa	1~4	1	日本語(中級) II		交換留学生等		2		
仏語選択(初級) IIb	1~4	1	日本語(中級) III		交換留学生等		2		
仏語選択(中級) a	1~4	1	日本語(中級) IV		交換留学生等		2		
仏語選択(中級) b	1~4	1	日本語(上級) IA		交換留学生等		1		
仏語選択(上級) a	1~4	1	日本語(上級) IB		交換留学生等		1		
仏語選択(上級) b	1~4	1	日本語(上級) IIA		交換留学生等		1		
スペイン語選択(初級) a	1~4	1	日本語(上級) IIB		交換留学生等		1		
スペイン語選択(初級) b	1~4	1	日本語(上級) IIIA	交換留学生等	2				
中国語選択(初級) Ia	1~4	1	日本語(上級) IIIB	交換留学生等	2				
中国語選択(初級) Ib	1~4	1	日本語(上級) IVA	交換留学生等	2				
中国語選択(初級) IIa	1~4	1	日本語(上級) IVB	交換留学生等	2				
中国語選択(初級) IIb	1~4	1							
中国語選択(中級) a	1~4	1							
中国語選択(中級) b	1~4	1							
中国語選択(上級) a	1~4	1							
中国語選択(上級) b	1~4	1							
韓国語会話選択a	1~4	1							
韓国語会話選択b	1~4	1							
韓国語選択(初級) a	1~4	1							
韓国語選択(初級) b	1~4	1							

《履修上の注意》

- ① 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「資格英語」は、TOEFL又はTOEICの成績優秀者に対して単位を授与する授業科目である。
- ③ 《英語到達目標》
 - ・「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第1回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

⑤ 《ディプロム・コース到達目標》

- ・中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ・上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。
- ・中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の3級の合格。

- ⑥ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

授業科目	配当年次	単位	備考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、【 授業に関すること 】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（スペイン語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・夏季） 【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2	

- ・「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は履修科目登録上限単位数には算入されない。詳細については、【[履修規定](#)】Ⅰ 総説【[履修科目登録上限単位数](#)】を参照すること。
 - ・海外短期語学研修のうち、配当年次が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - ・一度単位が授与された授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - ・2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修（英語・夏季）」（マレーシア）と2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）」の研修内容は同一である。
 - ・「海外短期語学研修」及び「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」（英文の成績証明書は「P」）と表示される。
 - ・2024年度に「海外短期語学研修（スペイン語・春季）・（スペイン語・夏季）」が新設された。
- ⑦ 「日本語（初級1・2）」、「日本語（中級）」、「日本語（上級）」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、又は外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
 - ⑧ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。

一般共通科目の卒業要件単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

一般共通科目は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 スポーツ・ウエルネス教育科目 スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	配当年次	単位	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目(半期)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ	1～4	2	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目(半期または集中)	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
		身体表現文化	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス		

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室又は指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。
なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。
- ⑤ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定Ⅰ 総説 Ⅱ 履修科目登録上限単位数】を参照すること。
- ⑥ 健康上の問題及び心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部又は科目担当専任教員まで申し出ること。

2 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
コンピュータ・リテラシーB	1～4	2	図書館活用法	1～4	2
コンピュータ・リテラシーC	1～4	2			

《履修上の注意》

- ①「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時間に開講している。
- ②セットで履修した「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

3 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表に示すとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD

授 業 科 目	配当年次	単 位
WRD	1～4	4

4 キャリア デザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2			

《履修上の注意》

- ① 2025年度に科目が一新され第16表の科目が新設された。
☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に卒業要件単位に算入することができる。なお、上限には修得済の旧授業科目「☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「★プロジェクト演習」も含まれるため注意すること。
- ② 2024年度をもって、「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「プロジェクト演習」は廃講となった。
- ③ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

Ⅲ

政策イノベーション学科授業科目一覧

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧

分野・区分		配当年次	1 年			
外国語科目	必修		English I : Skills for Learning [a] ① English I : Skills for Learning [b] ① English I : Social Interaction [a] ① English I : Social Interaction [b] ① English I : Academic Interaction [a] ① English I : Academic Interaction [b] ① English I : Reading and Writing [a] ① English I : Reading and Writing [b] ①			
基礎科目	必修		イノベーション概論 [a] ② イノベーション概論 [b] ②		情報リテラシー② データ分析入門②	
	選択 A		経済学④* 国際関係学④*	政策学②* 行政学②*	経営学④* 統計学④*	心理学④ 社会学④ 社会心理学④
	選択 B					
	選択 C		エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④
専門科目	必修					
	選択 A	政策系科目				
		戦略系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	心理系科目				
		社会系科目				
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

2 年	3 年		4 年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①				14
				8
				12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④		4
				4
基礎ゼミナール（政策）② 基礎ゼミナール（戦略）②	ゼミナール I ④		ゼミナール II ④ 卒業研究④	16
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論 I ② 金融イノベーション論 II ② 日本経済論②	日本金融論② 国際協力・開発イノベーション論④ 開発政策論② 開発支援論②	国際法④ 地域政策論④	32
		イノベーション経済論④ 公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④ 地域イノベーション論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	イノベーション・マーケティング② イノベーションとマーケティング・リサーチ② 企業家史④ 組織イノベーション論④	グローバル・イノベーション・マネジメント論④ 消費行動論② アート、デザインとクリエイティビティ②		
		人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	トップマネジメント論② 企業評価論④ アントレプレナーシップ&リーダーシップ②	
OCA② イノベーション・マネジメント実践演習② コミュニケーション・デザイン実践演習②		政策イノベーション特殊講義 I ② 政策イノベーション特殊講義 II ②		
イノベーション心理論④ 認知心理学 I ② 認知心理学 II ②	パーソナリティ心理学② メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④	
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論 I ② 日本社会文化論 II ② アジア社会文化論④	アメリカ社会文化論 I ② アメリカ社会文化論 II ② 現代国際社会学④ 異文化間コミュニケーション論 I ② 異文化間コミュニケーション論 II ②	環境社会論 I ② 環境社会論 II ② 現代社会福祉論② ケアの社会学②		14
		宗教社会論 I ② 宗教社会論 II ② 社会人類学②	NGO・NPO論② 社会調査専門演習④	
心理社会学特殊講義②				

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧（つづき）

配当年次	1 年				
分野・区分					
総合教養科目	短期学外演習②	教養演習④			
	総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ② 特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb②	現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b②	倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb②		
	【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ④ 総合教養科目を参照】				
	学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb①	中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択a① 韓国語会話選択b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）②	海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（スペイン語・春季）② 海外短期語学研修（スペイン語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 【2021年度以降入学者のみ履修可】① 海外短期語学研修（英語・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】① 海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】② 日本語（初級Ⅰ）Ⅰ② 日本語（初級Ⅰ）Ⅱ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅰ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅱ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅲ② 日本語（中級）Ⅰ② 日本語（中級）Ⅱ② 日本語（中級）Ⅲ② 日本語（中級）Ⅳ② 日本語（上級）ⅠA① 日本語（上級）ⅠB① 日本語（上級）ⅡA① 日本語（上級）ⅡB① 日本語（上級）ⅢA② 日本語（上級）ⅢB② 日本語（上級）ⅣA② 日本語（上級）ⅣB②	
		【外国語科目の一部は、Ⅴ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】			
		一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ⑤ 一般共通科目 1 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】		
			コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2② コンピュータ・リテラシーB②	コンピュータ・リテラシーC② コンピュータ・リテラシーD② コンピュータ・リテラシーE②	図書館活用法② WRD④
		【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ⑤ 一般共通科目 4 キャリアデザイン科目および Ⅴ卒業要件単 【国際交流科目は、Ⅴ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】			

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

IV

科目番号（科目ナンバリング）

概要

科目番号は、各授業科目に対して、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）におけるその位置付け（学修の段階、順序等も含む。）を表すために、各桁に以下に示す分類に基づく数字又は英字を当てて用いることにより、付されている。この科目番号により、当該授業科目がどのような配当年次（又はレベル）の、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

【例】 社会イノベーション学部 政策イノベーション学科における「イノベーション政策論」

NIN - CA3 - 2 - 3010
 ① 学科 ② 分野・区分・領域 ③ 配当年次 ④ 対象となる領域 ⑤ 識別番号

この科目番号であることにより、この授業科目は、政策イノベーション学科の教育課程において「専門科目・選択A・政策系科目」という科目区分の中に位置づけられており、配当年次は「2年次以上」、対象となる領域は「政策領域」であることを示している。

① 学科

N I N	政策イノベーション学科
-------	-------------

② 分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	外国語科目	M	必修	7	〈すべての科目に共通する。〉
B	基礎科目	M	必修	0	〈すべての科目に共通する。〉
		A	選択A		
		B	選択B		
		C	選択C		
C	専門科目	M	必修	0～6	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		A	選択A	3	政策系科目
				4	戦略系科目
		B	選択B	0, 1	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
				5	心理系科目
		6	社会系科目		
0, 2	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉				
D	総合教養科目	0	学部開設科目	0, 7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	教養科目群	1	総合科目
				2	成城学
				3	系列科目
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
		6	データサイエンス科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
E	学部共通科目	0	学部開設科目	7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	外国語科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		3	外国語科目（ディプロム）	0	〈すべての科目に共通する。〉
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
F	一般共通科目	1	スポーツ・ウエルネス科目	1	講義・演習科目
				2	実技科目
		2	IT科目	0	〈すべての科目に共通する。〉
		3	WRD	0	〈すべての科目に共通する。〉
		4	キャリアデザイン科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		5	国際交流科目群	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目

③ 配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次に履修できる科目

④ 対象となる領域

0	全領域に関連
1	政策・戦略の両領域に関連
2	心理・社会の両領域に関連
3	政策領域
4	戦略領域
5	心理領域
6	社会領域
7	英語
9	その他
A~F	(全学共通教育科目) *注1

*注1 A~Fの分類の詳細は、次表を参照すること。

⑤ 識別番号

識別番号	
下3桁	各科目に、原則として異なる番号が付与される（一部の科目を除く）。 なお、共通する科目名で [a]・[b]、I・IIとなっている場合には、最終桁が0と5の組合せとなっている。 ただし、全学共通教育科目は、この通りではない。*注2

*注2 全学共通教育科目についての詳細は、次表を参照すること。

全学共通教育科目の番号体系

([例]の対象となる領域に対応)		([例]の識別番号に対応)				下4桁		
科目群	分野	系列	基幹/展開					
A	リテラシー科目群	1 WRD	0	-	0	-	A100	
		2 外国語科目					A200	
		3 外国語科目 (ディプロム・コース)					A300	
		4 IT科目					A400	
B	教養科目群	1 総合科目	0	-	0	-	B100	
		2 成城学					B200	
		3 系列科目	1 現代社会論系列	1 基幹	B311			
				2 展開	B312			
			2 社会構造論系列	1 基幹	B321			
				2 展開	B322			
			3 思想・人間論系列	1 基幹	B331			
				2 展開	B332			
			4 表現文化論系列	1 基幹	B341			
				2 展開	B342			
			5 歴史文化論系列	1 基幹	B351			
				2 展開	B352			
6 地域空間論系列	1 基幹	B361						
	2 展開	B362						
7 数理・自然科学系列	1 基幹	B371						
	2 展開	B372						
8 心身論系列	1 基幹	B381						
	2 展開	B382						
C	キャリアデザイン科目群	0	-	0	-	C000		
D	国際交流科目群	1 留学対策科目	0	-	0	-	D100	
		2 英語等による地域研究科目					D200	
		3 英語等による日本事情関係科目					D300	
		4 英語等による特定のテーマを扱った科目					D400	
		5 海外短期語学研修					D500	
		6 受け入れ留学生科目					D600	
		7 留学準備演習					D700	
E	データサイエンス科目群	1 リテラシー科目	0	-	0	-	E100	
		2 応用基礎科目					E200	
		3 アドバンスド科目					E300	
		4 選択科目					E400	
F	スポーツ・ウエルネス教育科目	1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	0	-	0	-	F110	
							2 ウエルネス文化	F120
							3 身体表現文化	F130
		2 スポーツ・ウエルネス実技科目					0	-

V

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
 なお以下は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【[全学共通教育科目](#)】の項に記載されている。

分野・区分	授 業 科 目	配当年次	単位	授 業 科 目	配当年次	単位	
学部共通科目	外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
		英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読a	1~4	1
		英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	英文多読b	1~4	1
一般共通科目	キャリアデザイン科目	キャリア・エクスペリエンス	1~4	2	ライフ・キャリア I	2~4	2
		ワーク・キャリア I	2~4	2	ライフ・キャリア II	2~4	2
		ワーク・キャリア II	2~4	2	ライフ・キャリア III	2~4	2
		ワーク・キャリア III	2~4	2			
	国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A	1~4	1	Academic Skills IV A	1~4	1
		Academic Skills I B	1~4	1	Academic Skills IV B	1~4	1
		Academic Skills II A	1~4	1	Academic Skills V A	2~4	1
		Academic Skills II B	1~4	1	Academic Skills V B	2~4	1
		Academic Skills III A	1~4	1			
		Academic Skills III B	1~4	1			
	国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A	1~4	2	Asian Studies A	1~4	2
		European Studies B	1~4	2	Asian Studies B	1~4	2
		North American Studies A	1~4	2			
		North American Studies B	1~4	2			
	国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

《履修上の注意》

①《英語到達目標》

- 「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」

初級：TOEIC 600 - 700点、英検2級程度

中級：TOEIC 700 - 800点、英検準1級程度

上級：TOEIC 800 - 990点、英検1級程度

- 「英会話選択」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

- 「英文多読」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

② 2022年度をもって、「Academic Skills VIA・B」は廃講となった。

③ 2023年度をもって、「Oceanian Studies A・B」は廃講となった。

④ 2024年度をもって、「業界企業分析」、「職業選択」、「キャリア・プランニング・プログラム I・II」、「時事英語 I・II」、「時事問題研究」は廃講となった。

⑤ 2025年度に「キャリア・エクスペリエンス」、「ワーク・キャリア I・II・III」、「ライフ・キャリア I・II・III」が新設された。

⑥ 「キャリア・エクスペリエンス」は同一年度に「OCA」と並行して履修することはできない。

履修規定

心理社会学科

I 総説	56	D. 総合教養科目	64
A. 科目区分および卒業要件単位数	56	教養演習	
1) 科目区分		E. 学部共通科目	68
2) 卒業要件単位数		F. 一般共通科目	70
B. 履修科目登録上限単位数	56	1) スポーツ・ウエルネス教育科目	
1) 履修科目登録上限単位数制度		2) IT 科目	
2) 履修科目登録上限単位数		3) WRD	
C. コース認定制度	57	4) キャリアデザイン科目	
D. 2年次から3年次への進級基準	57	III 心理社会学科授業科目一覧	72
II 科目区分別履修方法	58	IV 科目番号 (科目ナンバリング)	76
A. 外国語科目	58	V 卒業要件単位に算入されない 授業科目	78
1) 必修			
2) TOEIC IP テスト			
3) 未修得科目の再履修			
B. 基礎科目	59		
1) 必修			
2) 選択			
C. 専門科目	61		
1) 必修			
2) 選択A・B			
3) OCA			
4) コース制度			

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**126単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 心理社会学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
	必修	8	28
基礎科目	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注3) 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

- ① 各年次毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。
※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。
- ② 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ③ 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
※ 今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目
- ④ 1年次後期より、学部を設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：

前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上（1年次生は前期GPA2.8以上）し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者は所定の期間（別途、掲示にて告知）に教務部に申請すること。

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、心理、社会、政策、戦略のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

授業科目		単位数	
1年次必修科目	外国語科目	English I: Skills for Learning [a]	1
		English I: Skills for Learning [b]	1
		English I: Social Interaction [a]	1
		English I: Social Interaction [b]	1
		English I: Academic Interaction [a]	1
		English I: Academic Interaction [b]	1
		English I: Reading and Writing [a]	1
		English I: Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論 [a]	2
		イノベーション概論 [b]	2
情報リテラシー		2	
データ分析入門		2	
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール（心理）	いずれか 2
		基礎ゼミナール（社会）	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目（卒業要件外単位を除く）		15	
合計		33	

II 科目区分別履修方法

A 外国語科目

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業要件単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授 業 科 目	配当年次	規定単位数	主な技能
必修	English I : Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I : Skills for Learning [b]		1	
	English I : Social Interaction [a]		1	リスニング スピーキング
	English I : Social Interaction [b]		1	
	English I : Academic Interaction [a]		1	
	English I : Academic Interaction [b]		1	
	English I : Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I : Reading and Writing [b]		1	
	English II : Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II : Presentation and Discussion		1	
	English II : Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II : Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II : Business Reading and Writing [a]		1	
	English II : Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、LiveCampusUの履修登録画面の履修状況メニューで確認すること。

1 必 修

1年次には、「English I : Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I : Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I : Social Interaction [a]/[b]」と「English I : Academic Interaction [a]/[b]」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II : Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II : Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II : Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II : Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返しトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位を修得している必要がある。

2年次後期の「English II : Presentation and Discussion」は、前期の「English II : Public Speaking」が合格又は認定の場合に限り履修可能である。LiveCampusUの履修登録画面上には、「English II : Presentation and Discussion」が表示されるが、「English II : Public Speaking」の単位が未修得の場合は、前期の成績確定後に、教務部が「English II : Presentation and Discussion」の登録を削除する。また、「English II : Business Reading and Writing [b]」は、履修年度（単位を取得しようとする年度）のTOEICスコアが450点

に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

※2021年度をもって「English I : Social Interaction」及び「English I : Academic Interaction」が廃講となり、2022年度に「English I : Social Interaction [a]/[b]」及び「English I : Academic Interaction [a]/[b]」が新設された。旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

2 TOEIC IP テスト

本学部学生には、1年次から3年次までの各年次において、学内で実施するTOEIC IPテスト、または学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを年1回受験することを義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目である「English II : Business Reading and Writing [b]」については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

本学部で実施されるTOEIC IPテストの受験手続きに関する情報、および本学部で実施されるTOEIC IPテスト以外により獲得したスコアの申告に関する情報は、別途掲示して通知する。

3 未修得科目の 再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次配当）を履修すること。

B 基礎科目

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第5表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

1 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授 業 科 目	配当年次	単位数
イノベーション概論 [a]	1	2
イノベーション概論 [b]	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
2023年度	イノベーション概論 [a]	イノベーション概論
	イノベーション概論 [b]	科学技術と社会

2 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となるような授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考
選択A	心理学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	社会学*	1~2	4	
	社会心理学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	経済学	1~2	4	
	国際関係学	1~2	4	
	政策学	1~2	2	
	行政学	1~2	2	
選択B	経営学	1~2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2~4	4	
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
	市場調査法	2~4	4	
選択C	心理研究法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	エコロジー論	1~4	4	
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
地域と文化	1~4	4		

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」及び「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第8表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表 専門科目規定単位数

科目区分		規定単位数
専門科目	必修	16
	選択A	32
	選択B	14
計		62

1 必修 専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授業科目	配当年次	単位
基礎ゼミナール（心理）	2	2
基礎ゼミナール（社会）	2	2
ゼミナールⅠ	3	4
ゼミナールⅡ	4	4
卒業研究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【授業に関すること】Ⅷ 卒業研究を参照すること。

2 選択A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目及び学科共通科目に分かれる。

選択Bは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目及び学科共通科目に分かれる。

選択A及び選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位	
選択A	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学Ⅰ	2~4	2	意思決定論	3・4	2
		認知心理学Ⅱ	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	ワークプレイス論	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	対人コミュニケーション論	3・4	4
		異文化間心理学	2~4	2	認知言語学	3・4	4
					ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
					産業カウンセリング	3・4	4
	社会系科目	イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論Ⅰ	3・4	2
		社会システム論	2~4	4	宗教社会論Ⅱ	3・4	2
		日本社会文化論Ⅰ	2~4	2	社会人類学	3・4	2
		日本社会文化論Ⅱ	2~4	2	NGO・NPO論	3・4	2
		アジア社会文化論	2~4	4	社会調査専門演習	3・4	4
		アメリカ社会文化論Ⅰ	2~4	2			
アメリカ社会文化論Ⅱ		2~4	2				
現代国際社会学		2~4	4				
異文化間コミュニケーション論Ⅰ		2~4	2				
異文化間コミュニケーション論Ⅱ		2~4	2				
環境社会論Ⅰ		2~4	2				
環境社会論Ⅱ	2~4	2					
現代社会福祉論	2~4	2					
ケアの社会学	2~4	2					
学科共通	OCA	2~4	2				
	イノベーション・マネジメント実践演習	2~4	2				
	コミュニケーション・デザイン実践演習	2~4	2				
	心理社会学特殊講義	2~4	2				
選択B	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅱ	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		日本経済論	2~4	2	地域イノベーション論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2			
		国際協力・開発イノベーション論	2~4	4			
		開発政策論	2~4	2			
	開発支援論	2~4	2				
	国際法	2~4	4				
	地域政策論	2~4	4				
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
イノベーション・マーケティング		2~4	2	トップマネジメント論	3・4	2	
イノベーションとマーケティング・リサーチ		2~4	2	企業評価論	3・4	4	
企業家史		2~4	4	アントレプレナーシップ&リーダーシップ	3・4	2	
組織イノベーション論		2~4	4				
グローバル・イノベーション・マネジメント論		2~4	4				
消費行動論	2~4	2					
アート、デザインとクリエイティビティ	2~4	2					
学科共通	政策イノベーション特殊講義Ⅰ	2~4	2				
	政策イノベーション特殊講義Ⅱ	2~4	2				

《履修上の注意》

- ① 選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**に充当することができる。
- ② 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

産業カウンセリング 日本経済論 (4/3 更新)	社会調査専門演習 日本金融論 (4/3 更新)	コミュニケーション・デザイン実践演習
-----------------------------	----------------------------	--------------------

- ③ 2020年度より「政策イノベーション特殊講義」は「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」に科目名称が変更された。旧科目の単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ④ 2020年度に「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」が新設された。
- ⑤ 2022年度に以下のように授業科目が変更された。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
認知心理学Ⅰ	認知心理学
認知心理学Ⅱ	
日本社会文化論Ⅰ	日本社会文化論
日本社会文化論Ⅱ	
アメリカ社会文化論Ⅰ	アメリカ社会文化論
アメリカ社会文化論Ⅱ	
現代社会福祉論	生活福祉論
ケアの社会学	
宗教社会論Ⅰ	宗教社会論
宗教社会論Ⅱ	

- ⑥ 2022年度をもって、「不動産開発論」、「都市開発論」、および「ロジスティクス論」は廃講となった。なお、修得済の単位は専門科目選択Bの単位として認められる。
- ⑦ 2023年度に「地域イノベーション論」、「コミュニケーション・デザイン実践演習」が新設された。
- ⑧ 2023年度より「社会イノベーション特殊演習」は「イノベーション・マネジメント実践演習」に科目名称が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ⑨ 2024年度に「アート、デザインとクリエイティビティ」、「アントレプレナーシップ&リーダーシップ」が新設された。
- ⑩ 2024年度に「心理社会学特殊講義」、「金融イノベーション論Ⅱ」、「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」、「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」の配当年次が変更された。
- ⑪ 2025年度に「現代企業論」は「イノベーション・マーケティング」と「イノベーションとマーケティング・リサーチ」に授業科目が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。

3 OCA

選択A学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

※ 「OCA事前講義」及び「OCA」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。**

※ 「OCA」は同一年度に「キャリア・エクスペリエンス」と並行して履修することはできない。

4 コース制度

専門科目の選択A及び選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【[履修規定](#)】Ⅰ 総説 [C](#) コース認定制度】及び【[履修モデル](#)】を参照すること。

D

総合教養科目

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが総合教養科目である。この科目区分の授業科目は第11表のとおりである。卒業要件単位数は12単位である。

なお、総合教養科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれている。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第11表 総合教養科目

分野	授 業 科 目	配当年次	単位	分野	授 業 科 目	配当年次	単位			
	短期学外演習	1~4	2	全学共通教育科目 教養科目群	総合科目	国際関係論入門 a	1~4	2		
	教養演習	1~4	4			国際関係論入門 b	1~4	2		
	応用英語研究	3・4	4			経済学入門 a	1~4	2		
	言語コミュニケーション演習	3・4	4			経済学入門 b	1~4	2		
全学共通教育科目 教養科目群	総合科目	総合講座 I	1~4			2	社会構造論系列	政治学入門 a	1~4	2
		総合講座 II	1~4			2		政治学入門 b	1~4	2
		総合講座 III	1~4			2		情報社会論入門 a	1~4	2
		総合講座 IV	1~4			2		情報社会論入門 b	1~4	2
		総合講座 V	1~4			2		法学（含む日本国憲法） a	1~4	2
		総合講座 VI	1~4			2		法学（含む日本国憲法） b	1~4	2
		特別講座 I	1~4		2	社会構造論 I a		1~4	2	
		特別講座 II	1~4		2	社会構造論 I b		1~4	2	
全学共通教育科目 教養科目群	成城学	成城学園を知る	1~4		2	社会構造論 II a		1~4	2	
		成城学 I	1~4		2	社会構造論 II b		1~4	2	
		成城学 II	1~4		2	社会構造論 III a	1~4	2		
		成城学 III	1~4		2	社会構造論 III b	1~4	2		
		成城学 IV	1~4		2	社会構造論 IV a	1~4	2		
全学共通教育科目 教養科目群（系列科目）	基幹	成城学 V	1~4		2	社会構造論 IV b	1~4	2		
		社会学入門 a	1~4		2	社会構造論 Va	1~4	2		
		社会学入門 b	1~4		2	社会構造論 Vb	1~4	2		
		メディア論入門 a	1~4	2	社会構造論 VI a	1~4	2			
		メディア論入門 b	1~4	2	社会構造論 VI b	1~4	2			
		現代社会論 I a	1~4	2	社会構造論演習 a	1~4	2			
		現代社会論 I b	1~4	2	社会構造論演習 b	1~4	2			
		現代社会論 II a	1~4	2	全学共通教育科目 教養科目群（系列科目）	思想・人間論系列	哲学入門 a	1~4	2	
		現代社会論 II b	1~4	2			哲学入門 b	1~4	2	
		現代社会論 III a	1~4	2			宗教学入門 a	1~4	2	
	現代社会論 III b	1~4	2	宗教学入門 b			1~4	2		
	現代社会論 IV a	1~4	2	倫理学入門 a			1~4	2		
	現代社会論 IV b	1~4	2	倫理学入門 b			1~4	2		
	現代社会論 V a	1~4	2	西洋思想入門 a			1~4	2		
	現代社会論 V b	1~4	2	西洋思想入門 b			1~4	2		
	現代社会論 VI a	1~4	2	東洋思想入門 a			1~4	2		
	現代社会論 VI b	1~4	2	東洋思想入門 b			1~4	2		
	現代社会論 VII a	1~4	2	日本思想入門 a	1~4	2				
	現代社会論 VII b	1~4	2	日本思想入門 b	1~4	2				
	現代社会論 VIII a	1~4	2	展開	思想・人間論 I a	1~4	2			
現代社会論 VIII b	1~4	2	思想・人間論 I b		1~4	2				
現代社会論演習 a	1~4	2	思想・人間論 II a		1~4	2				
現代社会論演習 b	1~4	2	思想・人間論 II b		1~4	2				

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位		
思想・人間論系列	展開	思想・人間論Ⅲa	1~4	2	基幹	文化人類学入門 a	1~4	2	
		思想・人間論Ⅲb	1~4	2		文化人類学入門 b	1~4	2	
		思想・人間論演習 a	1~4	2		空間システム論入門 a	1~4	2	
		思想・人間論演習 b	1~4	2		空間システム論入門 b	1~4	2	
表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1~4	2	地域空間論系列	展開	地域空間論Ⅰa	1~4	2
		文学入門 b	1~4	2			地域空間論Ⅰb	1~4	2
		言語学入門 a	1~4	2			地域空間論Ⅲa	1~4	2
		言語学入門 b	1~4	2			地域空間論Ⅲb	1~4	2
		音楽入門 a	1~4	2			地域空間論Ⅳa	1~4	2
		音楽入門 b	1~4	2			地域空間論Ⅳb	1~4	2
		表象文化論入門 a	1~4	2			地域空間論Ⅴa	1~4	2
		表象文化論入門 b	1~4	2			地域空間論Ⅴb	1~4	2
	展開	表現文化論Ⅰa	1~4	2		地域空間論Ⅵa	1~4	2	
		表現文化論Ⅰb	1~4	2		地域空間論Ⅵb	1~4	2	
		表現文化論Ⅱa	1~4	2		地域空間論Ⅶa	1~4	2	
		表現文化論Ⅱb	1~4	2		地域空間論Ⅶb	1~4	2	
		表現文化論Ⅲa	1~4	2		地域空間論Ⅷa	1~4	2	
		表現文化論Ⅲb	1~4	2		地域空間論Ⅷb	1~4	2	
		表現文化論Ⅳa	1~4	2		地域空間論演習 a	1~4	2	
		表現文化論Ⅳb	1~4	2		地域空間論演習 b	1~4	2	
歴史文化論系列	基幹	表現文化論Ⅴa	1~4	2	数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1~4	2
		表現文化論Ⅴb	1~4	2			数理の世界 b	1~4	2
		表現文化論Ⅵa	1~4	2			物理の世界 a	1~4	2
		表現文化論Ⅵb	1~4	2			物理の世界 b	1~4	2
		表現文化論演習 a	1~4	2			化学の世界 a	1~4	2
		表現文化論演習 b	1~4	2			化学の世界 b	1~4	2
		歴史学入門 a	1~4	2			生命科学の世界 a	1~4	2
		歴史学入門 b	1~4	2			生命科学の世界 b	1~4	2
	展開	日本近現代史 a	1~4	2		科学史 a	1~4	2	
		日本近現代史 b	1~4	2		科学史 b	1~4	2	
		ヨーロッパ近現代史 a	1~4	2		展開	自然科学Ⅰa	1~4	2
		ヨーロッパ近現代史 b	1~4	2			自然科学Ⅰb	1~4	2
		アジア近現代史 a	1~4	2			自然科学Ⅱa	1~4	2
		アジア近現代史 b	1~4	2			自然科学Ⅱb	1~4	2
		アメリカ近現代史 a	1~4	2			自然科学Ⅲa	1~4	2
		アメリカ近現代史 b	1~4	2			自然科学Ⅲb	1~4	2
歴史文化論Ⅰa	1~4	2	自然科学Ⅳa	1~4	2				
歴史文化論Ⅰb	1~4	2	自然科学Ⅳb	1~4	2				
展開	歴史文化論Ⅱa	1~4	2	自然科学Ⅴa	1~4	2			
	歴史文化論Ⅱb	1~4	2	自然科学Ⅴb	1~4	2			
	歴史文化論Ⅲa	1~4	2	数理・自然科学演習 a	1~4	2			
	歴史文化論Ⅲb	1~4	2	数理・自然科学演習 b	1~4	2			
	歴史文化論Ⅳa	1~4	2	心身論系列	展開	こころと身体 a	1~4	2	
	歴史文化論Ⅳb	1~4	2			こころと身体 b	1~4	2	
	歴史文化論Ⅴa	1~4	2			身体と運動・スポーツ a	1~4	2	
	歴史文化論Ⅴb	1~4	2			身体と運動・スポーツ b	1~4	2	
歴史文化論Ⅵa	1~4	2	心身論Ⅰa	1~4	2				
歴史文化論Ⅵb	1~4	2	心身論Ⅰb	1~4	2				
歴史文化論Ⅶa	1~4	2							
歴史文化論Ⅶb	1~4	2							
歴史文化論演習 a	1~4	2							
歴史文化論演習 b	1~4	2							

履修規定

心理社会学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目 教養科目群 (系列科目)	心身論系列 展開	心身論Ⅱa	1~4	2	全学共通教育科目 テーマを扱った科目 英語等による特定の 国際交流科目群	Special Topics I A	1~4	2
		心身論Ⅱb	1~4	2		Special Topics I B	1~4	2
		心身論Ⅲa	1~4	2		Special Topics II A	1~4	2
		心身論Ⅲb	1~4	2		Special Topics II B	1~4	2
		心身論Ⅳa	1~4	2		Special Topics III A	1~4	2
		心身論Ⅳb	1~4	2		Special Topics III B	1~4	2
		心身論Ⅴa	1~4	2		Special Topics IV A	1~4	2
		心身論Ⅴb	1~4	2		Special Topics IV B	1~4	2
		心身論演習 a	1~4	2		Special Topics V A	1~4	2
		心身論演習 b	1~4	2		Special Topics V B	1~4	2
全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A	1~4	2				
		Japan Studies I B	1~4	2				
		Japan Studies II A	1~4	2				
		Japan Studies II B	1~4	2				
		Japan Studies III A	1~4	2				
		Japan Studies III B	1~4	2				
		Japan Studies IV A	1~4	2				
		Japan Studies IV B	1~4	2				
		Japan Studies V A	1~4	2				
		Japan Studies V B	1~4	2				
		Japan Studies VI A	1~4	2				
		Japan Studies VI B	1~4	2				
		Japan Studies VII A	1~4	2				
		Japan Studies VII B	1~4	2				
		Japan Studies VIII A	1~4	2				
Japan Studies VIII B	1~4	2						
Japan Studies IX A	1~4	2						
Japan Studies IX B	1~4	2						

【2022年度以降入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	リテラシー科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
	応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2~4 2
		機械学習基礎	2~4 2
	アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
		データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 I	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 II	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 III	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 IV	2~4 2
	選択科目	データアナリティクス応用	2~4 2
		機械学習応用	2~4 2
		数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
	数理科学応用 b	1~4 2	

履修規定

心理社会学科

【2021年度以前入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	基礎科目	データサイエンス概論	1～4	2
		データサイエンス基礎	1～4	2
		データアナリティクス基礎	2～4	2
		データアナリティクス応用	2～4	2
	発展科目	機械学習基礎	2～4	2
		データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	選択科目	数理科学基礎 a	1～4	2
		数理科学基礎 b	1～4	2
		数理科学応用 a	1～4	2
		数理科学応用 b	1～4	2

《履修上の注意》

- ① 総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目に充当することができる。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ③ 「短期学外演習」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。
- ④ 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」及び「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ⑤ 2021・2022年度開講の「特別講座Ⅱ」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 2021年度をもって、「数理科学Ⅰa・b」、「数理科学Ⅱa・b」は廃講となった。修得済みの単位は総合教養科目の単位として認められる。
- ⑦ 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

- ⑧ 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- ⑨ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑩ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
 - ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑪ 2022年度に「数理科学基礎a・b」、「数理科学応用a・b」が新設された。
- ⑫ 2023年度に「Special TopicsⅤA・B」が新設された。
- ⑬ 2024年度に「Japan StudiesⅨA・B」が新設された。

教養演習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位に算入することができるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

《履修上の注意》

- ① 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「資格英語」は、TOEFL又はTOEICの成績優秀者に対して単位を授与する授業科目である。
- ③ 《英語到達目標》
 - ・「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・「選択（初級）I a～II b」の計4単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第1回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

⑤ 《ディプロム・コース到達目標》

- ・中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ・上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。
- ・中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の3級の合格。

⑥ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

授業科目	配当年次	単位	備考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、【 授業に関すること 】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（スペイン語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・夏季） 【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2	

- ・「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は履修科目登録上限単位数には算入されない。詳細については、【[履修規定](#)】Ⅰ 総説 Ⅱ 履修科目登録上限単位数】を参照すること。
 - ・海外短期語学研修のうち、配当年次が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を教務部が履修登録する。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の当否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - ・一度単位が授与された授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - ・2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修（英語・夏季）」（マレーシア）と2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）」の研修内容は同一である。
 - ・「海外短期語学研修」及び「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」（英文の成績証明書は「P」）と表示される。
 - ・2024年度に「海外短期語学研修（スペイン語・春季）・（スペイン語・夏季）」が新設された。
- ⑦ 「日本語（初級1・2）」、「日本語（中級）」、「日本語（上級）」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、又は外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
 - ⑧ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。

一般共通科目の卒業要件単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

一般共通科目は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 スポーツ・ウエルネス教育科目 スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	配当年次	単位	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目(半期)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ	1～4	2	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目(半期または集中)	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
		身体表現文化	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス		

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室又は指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。
なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。
- ⑤ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定Ⅰ 総説Ⅱ 履修科目登録上限単位数】を参照すること。
- ⑥ 健康上の問題及び心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部又は科目担当専任教員まで申し出ること。

2 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
コンピュータ・リテラシーB	1～4	2	図書館活用法	1～4	2
コンピュータ・リテラシーC	1～4	2			

《履修上の注意》

- ①「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。
- ②セットで履修した「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

3 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD

授 業 科 目	配当年次	単 位
WRD	1～4	4

4 キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2	★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2			

《履修上の注意》

- ① 2025年度に科目が一新され、第16表の科目が新設された。☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に卒業要件単位に算入することができる。なお、上限には修得済の旧授業科目「☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「★プロジェクト演習」も含まれるため注意すること。
- ② 2024年度をもって、「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「プロジェクト演習」は廃講となった。
- ③ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

Ⅲ

心理社会学科授業科目一覧

第17表 心理社会学科授業科目一覧

分野・区分		配当年次	1 年					
外国語科目	必修		English I: Skills for Learning [a] ① English I: Skills for Learning [b] ① English I: Social Interaction [a] ① English I: Social Interaction [b] ① English I: Academic Interaction [a] ① English I: Academic Interaction [b] ① English I: Reading and Writing [a] ① English I: Reading and Writing [b] ①					
基礎科目	必修		イノベーション概論 [a] ②		情報リテラシー②			
			イノベーション概論 [b] ②		データ分析入門②			
	選択A		心理学④*	社会心理学④*	経済学④	政策学②	経営学④	
			社会学④*	統計学④*	国際関係学④	行政学②		
選択B								
選択C		エコロジー論④	比較文化論④	文明と社会④	地域と文化④			
			生命倫理論④	生命の科学④	家族と社会の変動④			
専門科目	必修							
		選択A	心理系科目					
			社会系科目					
			学科共通科目					
		選択B	政策系科目					
			戦略系科目					
学科共通科目								

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

2 年	3 年		4 年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①				14
				8
				12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④		4
				4
基礎ゼミナール (心理) ② 基礎ゼミナール (社会) ②	ゼミナール I ④		ゼミナール II ④ 卒業研究④	16
イノベーション心理論④ 認知心理学 I ② 認知心理学 II ②	パーソナリティ心理学② メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④	32
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論 I ② 日本社会文化論 II ② アジア社会文化論④	アメリカ社会文化論 I ② アメリカ社会文化論 II ② 現代国際社会学④ 異文化間コミュニケーション論 I ② 異文化間コミュニケーション論 II ②	環境社会論 I ② 環境社会論 II ② 現代社会福祉論② ケアの社会学②		
		宗教社会論 I ② 宗教社会論 II ② 社会人類学②	NGO・NPO論② 社会調査専門演習④	
OCA② イノベーション・マネジメント実践演習②		コミュニケーション・デザイン実践演習② 心理社会学特殊講義②		
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論 I ② 金融イノベーション論 II ② 日本経済論②	日本金融論② 国際協力・開発イノベーション論④ 開発政策論② 開発支援論②	国際法④ 地域政策論④	14
		イノベーション経済論④ 公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④ 地域イノベーション論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	イノベーション・マーケティング② イノベーションとマーケティング・リサーチ② 企業家史④ 組織イノベーション論④	グローバル・イノベーション・マネジメント論④ 消費行動論② アート、デザインとクリエイティビティ②		
		人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	トップマネジメント論② 企業評価論④ アントレプレナーシップ&リーダーシップ②	
政策イノベーション特殊講義 I ②	政策イノベーション特殊講義 II ②			

第17表 心理社会学科授業科目一覧（つづき）

配当年次	1 年				
分野・区分					
総合教養科目	短期学外演習②	教養演習④			
	総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ② 特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb②	現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b②	倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb②		
	【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ④ 総合教養科目を参照】				
	学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb①	中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択a① 韓国語会話選択b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）②	海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（スペイン語・春季）② 海外短期語学研修（スペイン語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 【2021年度以降入学者のみ履修可】① 海外短期語学研修（英語・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】① 海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】② 日本語（初級Ⅰ）Ⅰ② 日本語（初級Ⅰ）Ⅱ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅰ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅱ② 日本語（初級Ⅱ）Ⅲ② 日本語（中級）Ⅰ② 日本語（中級）Ⅱ② 日本語（中級）Ⅲ② 日本語（中級）Ⅳ② 日本語（上級）ⅠA① 日本語（上級）ⅠB① 日本語（上級）ⅡA① 日本語（上級）ⅡB① 日本語（上級）ⅢA② 日本語（上級）ⅢB② 日本語（上級）ⅣA② 日本語（上級）ⅣB②	
		【外国語科目の一部は、Ⅴ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】			
		一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ⑤ 一般共通科目 1 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】		
			コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2② コンピュータ・リテラシーB②	コンピュータ・リテラシーC② コンピュータ・リテラシーD② コンピュータ・リテラシーE②	図書館活用法② WRD④
		【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ⑤ 一般共通科目 4 キャリアデザイン科目および Ⅴ卒業要件単 【国際交流科目は、Ⅴ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】			

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

2 年	3 年		4 年	卒業要件 単位数
	応用英語研究④	言語コミュニケーション演習④		12
表現文化論 Va② 表現文化論 Vb② 表現文化論 VIa② 表現文化論 VIb② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② 歴史文化論 I a② 歴史文化論 I b② 歴史文化論 II a② 歴史文化論 II b② 歴史文化論 III a② 歴史文化論 III b② 歴史文化論 IV a② 歴史文化論 IV b② 歴史文化論 Va② 歴史文化論 Vb② 歴史文化論演習a② 歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b② 地域空間論 I a②	地域空間論 I b② 地域空間論 III a② 地域空間論 III b② 地域空間論 IV a② 地域空間論 IV b② 地域空間論 Va② 地域空間論 Vb② 地域空間論 VI a② 地域空間論 VI b② 地域空間論 VII a② 地域空間論 VII b② 地域空間論 VIII a② 地域空間論 VIII b② 地域空間論演習a② 地域空間論演習b② 数理の世界a② 数理の世界b② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b② 自然科学 I a② 自然科学 I b② 自然科学 II a② 自然科学 II b② 自然科学 III a② 自然科学 III b② 自然科学 IV a② 自然科学 IV b②	自然科学 Va② 自然科学 Vb② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② ことごとと身体a② ことごとと身体b② 身体と運動・スポーツa② 身体と運動・スポーツb② 心身論 I a② 心身論 I b② 心身論 II a② 心身論 II b② 心身論 III a② 心身論 III b② 心身論 IV a② 心身論 IV b② 心身論 Va② 心身論 Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②		
資格英語 ② English for International Communication② English for Academic Settings② English for Practical Proficiency② Innovation Studies in English [a] ① Innovation Studies in English [b] ① Advanced Oral Interaction in English② Critical Reading in English [a] ① Critical Reading in English [b] ① Research Writing Skills in English [a] ① Research Writing Skills in English [b] ①	Thesis Writing Skills in English [a] ① Thesis Writing Skills in English [b] ①			6
位に算入されない授業科目を参照】				4
合 計				126

履修規定

心理社会学科

IV

科目番号（科目ナンバリング）

概要

科目番号は、各授業科目に対して、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）におけるその位置付け（学修の段階、順序等も含む。）を表すために、各桁に以下に示す分類に基づく数字又は英字を当てて用いることにより、付されている。この科目番号により、当該授業科目がどのような配当年次（又はレベル）の、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

【例】 社会イノベーション学部 心理社会学科における「イノベーション心理論」



この科目番号であることにより、この授業科目は、心理社会学科の教育課程において「専門科目・選択A・心理系科目」という科目区分の中に位置づけられており、配当年次は「2年次以上」、対象となる領域は「心理領域」であることを示している。

① 学科

NPS	心理社会学科
-----	--------

② 分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	外国語科目	M	必修	7	〈すべての科目に共通する。〉
B	基礎科目	M	必修	0	〈すべての科目に共通する。〉
		A	選択A		
		B	選択B		
		C	選択C		
C	専門科目	M	必修	0～6	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		A	選択A	5	心理系科目
				6	社会系科目
		B	選択B	0, 2	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
				3	政策系科目
		4	戦略系科目		
0, 1	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉				
D	総合教養科目	0	学部開設科目	0, 7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	教養科目群	1	総合科目
				2	成城学
				3	系列科目
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
		6	データサイエンス科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
E	学部共通科目	0	学部開設科目	7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	外国語科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		3	外国語科目（ディプロム）	0	〈すべての科目に共通する。〉
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
F	一般共通科目	1	スポーツ・ウエルネス科目	1	講義・演習科目
				2	実技科目
		2	IT科目	0	〈すべての科目に共通する。〉
		3	WRD	0	〈すべての科目に共通する。〉
		4	キャリアデザイン科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		5	国際交流科目群	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目

③ 配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次に履修できる科目

④ 対象となる領域

0	全領域に関連
1	政策・戦略の両領域に関連
2	心理・社会の両領域に関連
3	政策領域
4	戦略領域
5	心理領域
6	社会領域
7	英語
9	その他
A~F	(全学共通教育科目) *注1

*注1 A~Fの分類の詳細は、次表を参照すること。

⑤ 識別番号

識別番号	
下3桁	各科目に、原則として異なる番号が付与される（一部の科目を除く）。 なお、共通する科目名で [a]・[b]、I・IIとなっている場合には、最終桁が0と5の組合せとなっている。 ただし、全学共通教育科目は、この通りではない。*注2

*注2 全学共通教育科目についての詳細は、次表を参照すること。

全学共通教育科目の番号体系

([例]の対象となる領域に対応)		([例]の識別番号に対応)				下4桁		
科目群	分野	系列	基幹/展開					
A	リテラシー科目群	1	WRD	0	-	0	-	A100
		2	外国語科目					A200
		3	外国語科目 (ディプロム・コース)					A300
		4	IT科目					A400
B	教養科目群	1	総合科目	0	-	0	-	B100
		2	成城学					B200
		3	系列科目	1	現代社会論系列	1	基幹	B311
						2	展開	B312
				2	社会構造論系列	1	基幹	B321
						2	展開	B322
				3	思想・人間論系列	1	基幹	B331
						2	展開	B332
				4	表現文化論系列	1	基幹	B341
						2	展開	B342
				5	歴史文化論系列	1	基幹	B351
						2	展開	B352
6	地域空間論系列	1	基幹	B361				
		2	展開	B362				
7	数理・自然科学系列	1	基幹	B371				
		2	展開	B372				
8	心身論系列	1	基幹	B381				
		2	展開	B382				
C	キャリアデザイン科目群	0	-	0	-	0	-	C000
D	国際交流科目群	1	留学対策科目	0	-	0	-	D100
		2	英語等による地域研究科目					D200
		3	英語等による日本事情関係科目					D300
		4	英語等による特定のテーマを扱った科目					D400
		5	海外短期語学研修					D500
		6	受け入れ留学生科目					D600
		7	留学準備演習					D700
E	データサイエンス科目群	1	リテラシー科目	0	-	0	-	E100
		2	応用基礎科目					E200
		3	アドバンスド科目					E300
		4	選択科目					E400
F	スポーツ・ウエルネス教育科目	1	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	0	-	0	-	F110
			ウエルネス文化					F120
			身体表現文化					F130
		2	スポーツ・ウエルネス実技科目	0	-	0	-	F200

V

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
 なお以下は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【[全学共通教育科目](#)】の項に記載されている。

分野・区分	授 業 科 目	配当年次	単位	授 業 科 目	配当年次	単位	
学部共通科目	外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
		英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
		英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読a	1~4	1
		英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	英文多読b	1~4	1
一般共通科目	キャリアデザイン科目	キャリア・エクスペリエンス	1~4	2	ライフ・キャリア I	2~4	2
		ワーク・キャリア I	2~4	2	ライフ・キャリア II	2~4	2
		ワーク・キャリア II	2~4	2	ライフ・キャリア III	2~4	2
		ワーク・キャリア III	2~4	2			
	国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A	1~4	1	Academic Skills IV A	1~4	1
		Academic Skills I B	1~4	1	Academic Skills IV B	1~4	1
		Academic Skills II A	1~4	1	Academic Skills V A	2~4	1
		Academic Skills II B	1~4	1	Academic Skills V B	2~4	1
		Academic Skills III A	1~4	1			
		Academic Skills III B	1~4	1			
	国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A	1~4	2	Asian Studies A	1~4	2
		European Studies B	1~4	2	Asian Studies B	1~4	2
		North American Studies A	1~4	2			
		North American Studies B	1~4	2			
	国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2025年度休講科目一覧」を参照すること。

《履修上の注意》

①《英語到達目標》

- ・「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」
 初級：TOEIC 600 - 700点、英検2級程度
 中級：TOEIC 700 - 800点、英検準1級程度
 上級：TOEIC 800 - 990点、英検1級程度
- ・「英会話選択」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ・「英文多読」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

② 2022年度をもって、「Academic Skills VIA・B」は廃講となった。

③ 2023年度をもって、「Oceanian Studies A・B」は廃講となった。

④ 2024年度をもって、「業界企業分析」、「職業選択」、「キャリア・プランニング・プログラム I・II」、「時事英語 I・II」、「時事問題研究」は廃講となった。

⑤ 2025年度に「キャリア・エクスペリエンス」、「ワーク・キャリア I・II・III」、「ライフ・キャリア I・II・III」が新設された。

⑥ 「キャリア・エクスペリエンス」は同一年度に「OCA」と並行して履修することはできない。

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	80
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	84

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造性に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[E]の科目群を開設している。各学部カリキュラムの位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
 また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
 IT科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
 総合科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
 成城学の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、8つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。系列科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理・自然科学系列	科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目、さらに、現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は基本コンセプトを「働く×学ぶ×貢献する×生きる」とし、学生は自らのライフ・キャリア(≒人生)を創造していく。全16科目は「自己と他者」、「他者と社会」、「現場と体験」、「仕事と社会」、「人生の役割」に分類され、学生は講義・演習・実習を通してアクティブに学びあう。開設科目は、p.47・71 第16表に示されている。

Seijo Career Programのサーティフィケートの認定要件については、p.84 第1表に示されている。なお、成城大学就業力育成・認定プログラムのディプロマ(2024年度以前入学者対象)の認定要件については、過年度分の履修の手引を確認すること。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能(IELTS等試験対策を含む)を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム(SIEP)」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

成城国際教育プログラム(SIEP)の修了要件については、p.85 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.85 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武道、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウェルネス実技科目

スポーツ・ウェルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。スポーツ・ウェルネス実技科目の開設科目は、下表に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

			政策イノベーション学科	心理社会学科
A)リテラシー科目群	1 WRD		P.47 第15表	P.71 第15表
	2 外国語科目		P.44 第12表	P.68 第12表
		卒業要件外	P.54	P.78
	3 IT科目		P.47 第14表	P.71 第14表
B)教養科目群	1 総合科目		P.40 第11表	P.64 第11表
	2 成城学		P.40 第11表	P.64 第11表
	3 系列科目		P.40 第11表	P.64 第11表
C)キャリアデザイン科目群			P.47 第16表	P.71 第16表
	卒業要件外		P.54	P.78
D)国際交流科目群		【総合教養科目】	P.42 第11表	P.66 第11表
		【学部共通科目】	P.44 第12表	P.68 第12表
		卒業要件外	P.54	P.78
E)データサイエンス科目群			P.42 第11表	P.66 第11表
F)スポーツ・ウェルネス教育科目			P.46 第13表	P.70 第13表

II

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.82）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 Seijo Career Program (SCP)

サーティフィケート ベーシック 取得要件	サーティフィケート アドバンス 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
2単位以上	2単位以上	キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
		キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
		キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
		キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
		キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
		キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
		キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2
		キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
		キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
	2単位以上	ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
		ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
		ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
	2単位以上	ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
		ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
		ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注1) 2025年度にプログラムが一新された。「(「成城大学就業力育成・認定プログラム」については過年度の履修の手引を確認すること。)

注2) 2024年度以前に以下の旧授業科目の単位を修得している場合、「Seijo Career Program」においてのみ新授業科目の単位として認定する。また、「成城大学就業力育成・認定プログラム」においても新授業科目の単位を修得した場合、対応する旧授業科目の単位を修得したものと認定する。詳細はキャリアセンターに確認すること。

旧授業科目	新授業科目
キャリア形成Ⅰ	キャリア・ベーシックⅠ
キャリア形成Ⅱ	キャリア・ベーシックⅡ
キャリア形成Ⅳ	キャリア・プラクティスⅣ
プロジェクト演習	キャリア・プラクティスⅠ
	キャリア・プラクティスⅢ

注3) キャリアセンターでは、Seijo Career Programを補完し、さらに学びを深めるための「正課外プログラム」を用意しているので、積極的な受講が望まれる（ただし正課外プログラムの開講状況については適宜キャリアセンターに確認すること）。

第2表 成城国際教育プログラム (SIEP)

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次
コア科目 (必須)	留学準備演習	1~4
選択科目 (8単位以上)	留学対策科目 [Academic Skills]	1~4/2~4
	英語等による地域研究科目: Area Studies (European Studies, North American Studies, Asian Studies)	1~4
	英語等による日本事情関係科目 [Japan Studies]	1~4
	英語等による特定のテーマを扱った科目 [Special Topics]	1~4
	海外短期語学研修 (春季/夏季)	(春季)* (注1) (夏季) 1~4
	キャリア・エクスペリエンス (注2)	1~4
	成城インターンシップ (注2)	1~4
OCA (注2)	社2~4	

注1) 配当年次*印の科目は、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 海外実施プログラムのみ対象

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム [2022年度以降入学者用]

	リテラシーレベル・ ディプロマ 取得要件	応用基礎 ディプロマ 取得要件	アドバンスド・ ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
リテラシー 科目	○	○	○	データサイエンス概論	1~4	2
	○	○	○	データサイエンス基礎	1~4	2
応用基礎 科目		○	○	データアナリティクス基礎	2~4	2
		○	○	機械学習基礎	2~4	2
アドバンスド 科目			この中から 2科目4単位 選択必修 (注1)	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4	2
				データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2~4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅰ	2~4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅱ	2~4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅲ	2~4	2
			データサイエンス特殊講義Ⅳ	2~4	2	

注1) アドバンスド・ディプロマの取得希望者は「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」から1科目以上を修得することが望ましい。

注2) 2022~2023年度入学者のみ、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度がある。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム [2021年度以前入学者用]

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1~4	2
	○	○	データサイエンス基礎 (旧: データサイエンス入門Ⅰ)	1~4	2
	○	○	データアナリティクス基礎 (旧: データサイエンス入門Ⅱ)	2~4	2
		○	データアナリティクス応用 (旧: データサイエンス応用)	2~4	2
発展科目	○	○	機械学習基礎 (旧: データサイエンス・スキルアップ・プログラム)	2~4	2
		○	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4	2

注) 2021年度から、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度が導入された。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

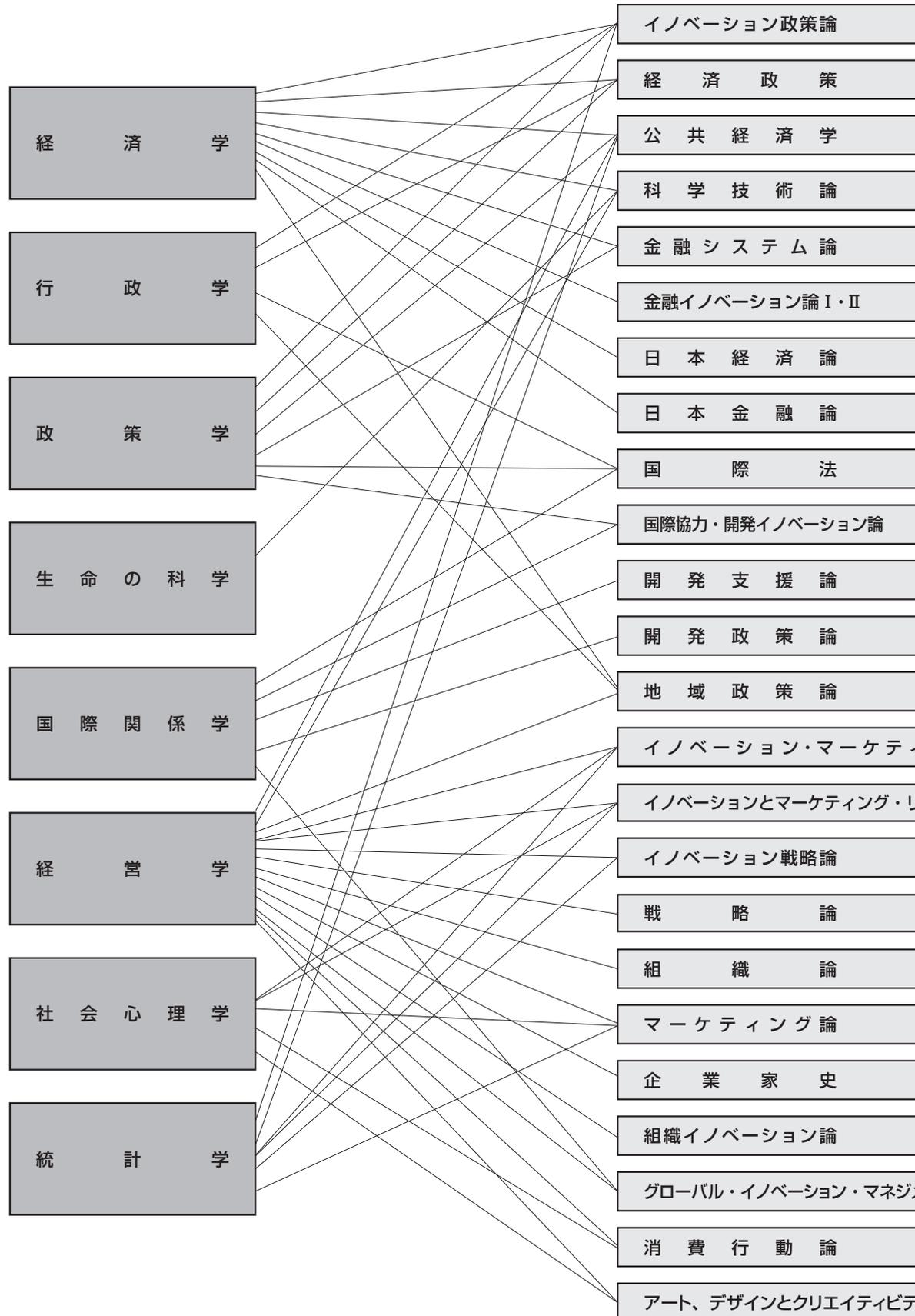
履修系統図

社会イノベーション学部
(政策イノベーション学科及び心理社会学科) …………… 88

社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理社会

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（政策系科目及び戦略系科目）

履修系統図



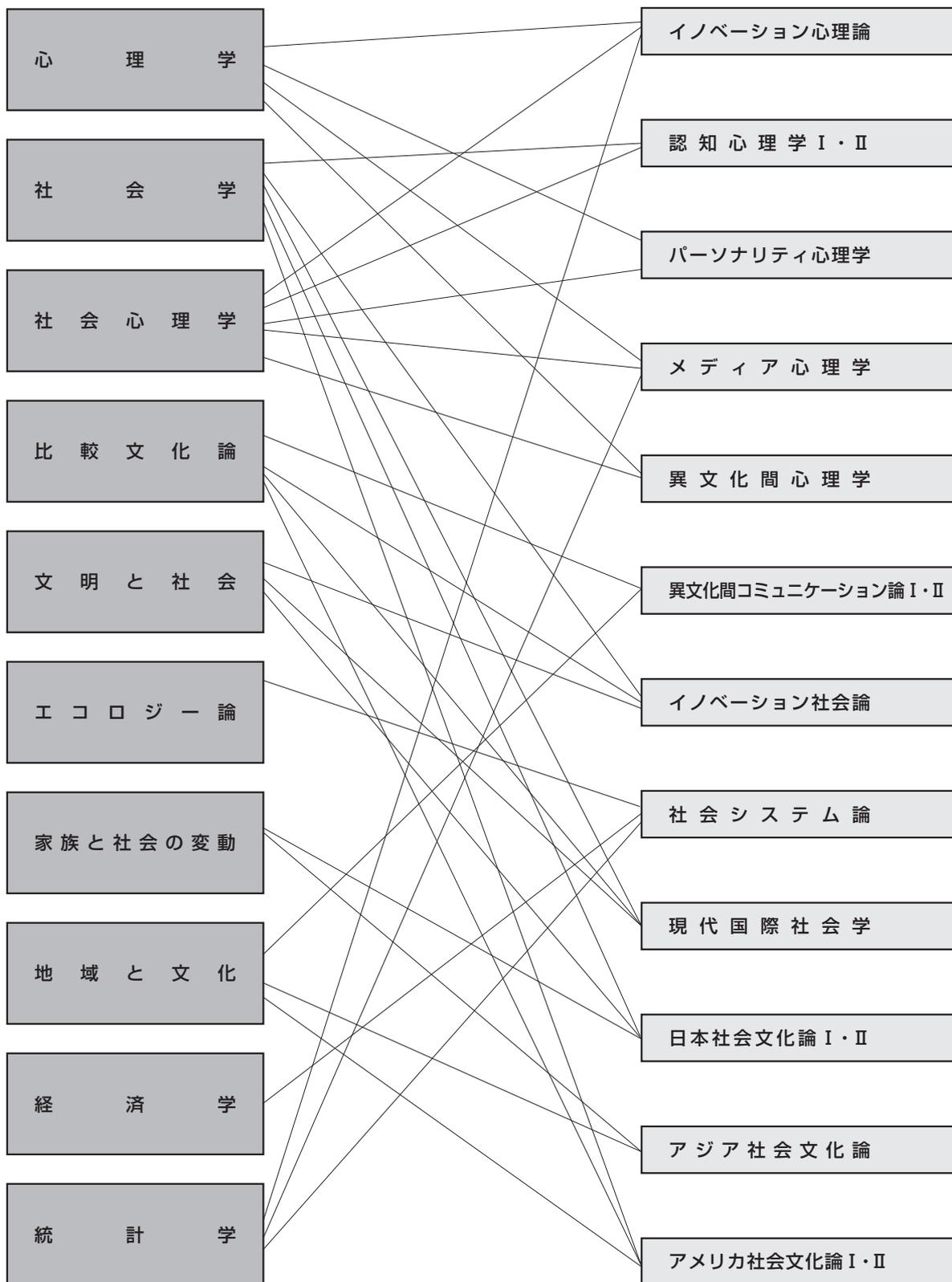
学科) 履修系統図



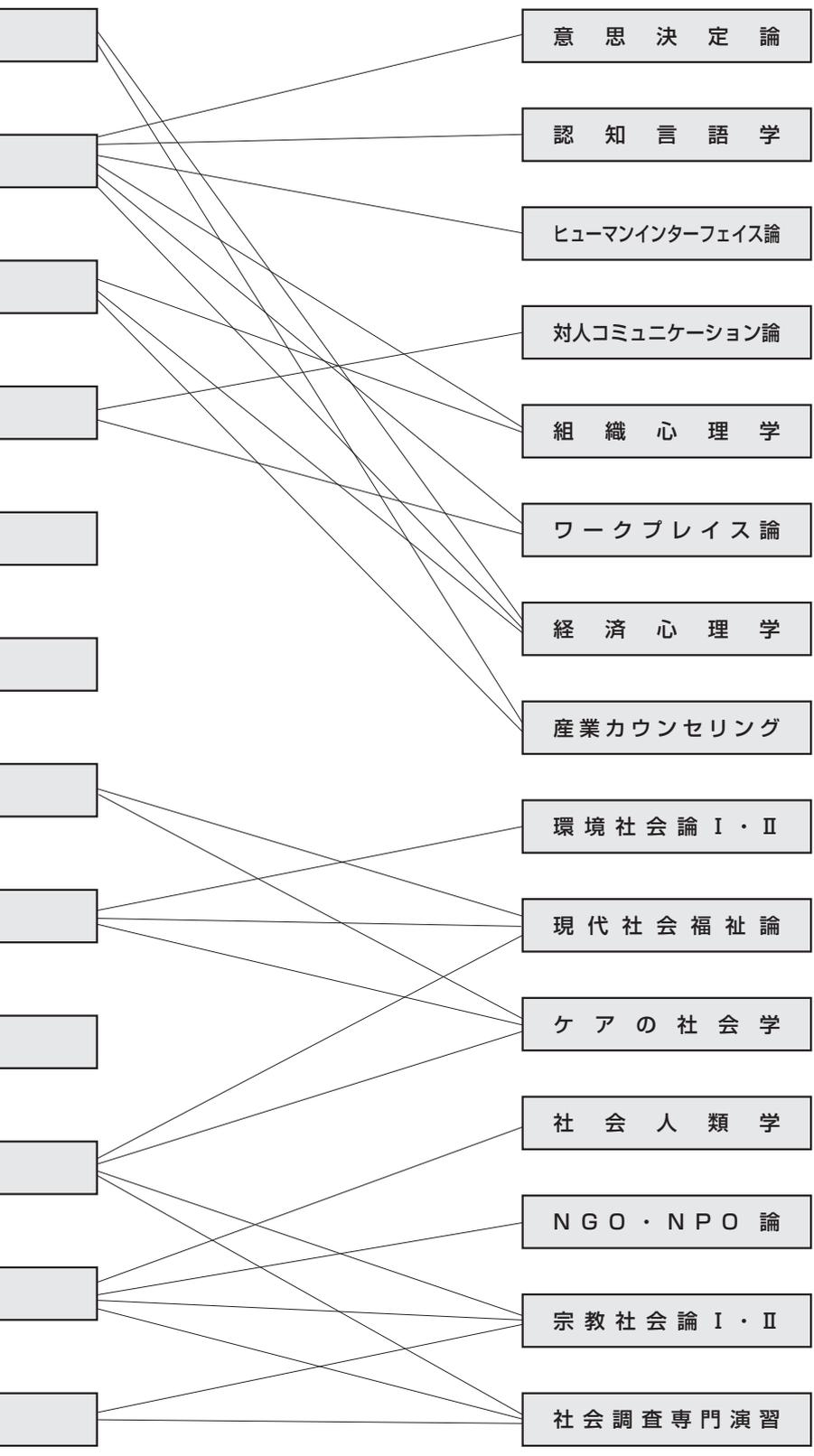
履修系統図

社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理社会

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（心理系科目及び社会系科目）



学科) 履修系統図



履修系統図

履修モデル

政策コース	94
戦略コース	95
心理コース	96
社会コース	97

履修モデル 政策コース 政策イノベーション学科に所属するAさんの場合

将来は経済系の官庁に勤め、知識立国という新しい視点から新産業の育成に携わりたいと考えている。

〈政策レベルにおけるイノベーション・システムについて学ぶ〉

日本が継続的に発展するためには、イノベーションをいかに生み出していくかが重要となる。そして、その鍵を握っているのが、政策レベルでのイノベーション・システムの確立である。政策コースでは、国のイノベーション政策の方向性、科学技術の動向、イノベーション遂行のための資金問題、国際的な技術移転などに関する知識を深めるとともに、企業レベルでのイノベーションの遂行、社会レベルでのイノベーションの普及についてもしっかり学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 経済学 国際関係学 政策学 選択 C 生命の科学	しっかりと基礎を培う 「イノベーション概論 [a][b]」などの必修科目に加え、「経済学」、「国際関係学」、「政策学」などの基礎を学ぶ。	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 一般共通科目 コンピュータ・リテラシー A 1・A 2 テニス 総合教養科目 教養演習
	選択 A 行政学 社会学 選択 B 社会調査法	2年次からコースを選択 政策 イノベーション政策論 科学技術論 金融システム論 経済政策 戦略 イノベーション戦略論 社会 イノベーション社会論 現代国際社会学 ゼミナール 基礎ゼミナール (政策) 基礎ゼミナール (戦略)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 仏語選択 (初級) a・b 総合教養科目 生命科学の世界 a・b
2年	政策イノベーションを中心に、より深い認識を 専門科目はイノベーション政策やそれを支える金融システムに関する授業科目を中心に履修。また、企業のイノベーションやイノベーションと個人・社会の関わり、さらには社会の変容などについても認識を深める。	政策 イノベーション経済論 金融イノベーション論 I・II 戦略 イノベーション・マーケティング 心理 イノベーション心理論 社会 環境社会論 I・II ゼミナール ゼミナール I	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings 仏語選択 (中級) a・b
		政策 知的財産法 戦略 ベンチャービジネス論 心理 メディア心理学 ゼミナール ゼミナール II 卒業研究 卒業研究	総合教養科目 地域空間論 IV a・b 卒業研究例 「イノベーション・システムと産業創造」
3年			
4年			

関連分野の教養の幅を広げる

履修モデル

めざす将来

政策、企業戦略、社会へとイノベーションの循環を達成し、それを基盤に新しい産業の創造を企画・立案できる能力を備えた人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国家公務員、地方公務員、シンクタンク、NGO・NPO職員など

履修モデル 戦略コース 政策イノベーション学科に所属するBさんの場合

競争企業から一歩先行く新製品の開発プロジェクトリーダーを目指す。

〈企業を進化させる戦略的イノベーションにアプローチ〉

現代企業が成長し、事業を拡大していくためには、つねに競争企業から一歩先を行く新製品の開発が必要となる。もちろん、そうした新製品は技術的なものばかりではなく、マーケットニーズに対応した商品やサービスも含まれる。戦略コースでは、企業の持つ技術やブランドといった経営資源と顧客ニーズについて正しく把握し、企業を進化させるために必要な戦略的イノベーションの基本的な考え方から実践的な方法論までを学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択 A 経済学 経営学 社会心理学</p> <p>選択 C 地域と文化</p>		<p>■ 外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■ 総合教養科目 自然科学 I a・b 心身論</p> <p>■ 一般共通科目 エアロビクス</p>
2年	<p>選択 B 市場調査法</p> <p>イノベーション戦略関連科目を重点的に学習 専門科目では企業の戦略関連科目を中心に学習し、理論から実践的手法までを学ぶ。また、国の政策や社会への普及も理解するとともに、プロジェクト運営という視点から「組織心理学」も履修する。</p>	<p>戦略 イノベーション戦略論 戦略論、マーケティング論 イノベーション・マーケティング</p> <p>心理 イノベーション心理学</p> <p>社会 社会システム論、現代国際社会学</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール (戦略) 基礎ゼミナール (政策)</p>	<p>■ 外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■ 学部共通科目 English for International Communication</p> <p>■ 総合教養科目 社会構造論 VI a・b 表象文化論入門 a・b</p>
		<p>政策 イノベーション政策論</p> <p>戦略 企業評価論 企業家史、新商品開発論 研究開発管理論、消費行動論 トップマネジメント論</p> <p>社会 異文化間コミュニケーション論 I・II</p> <p>ゼミナール ゼミナール I</p>	<p>■ 総合教養科目 言語コミュニケーション演習</p> <p>■ 学部共通科目 English for Academic Settings English for Practical Proficiency</p> <p>■ 一般共通科目 水泳 トレーニング</p>
3年		<p>政策 知的財産法</p> <p>戦略 ベンチャービジネス論</p> <p>心理 組織心理学、異文化間心理学</p> <p>ゼミナール ゼミナール II</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■ 学部共通科目 ビジネス英語 a・b</p> <p>卒業研究例 「企業成長における革新的イノベーションと漸新的イノベーションの役割」</p>
4年			

市場調査法で顧客ニーズを学ぶ
選択科目で基礎的な考え方を養うとともに、顧客ニーズの分析手法として「市場調査法」を履修。

2年次からコースを選択

関連分野の教養の幅を広げる

履修モデル

めざす将来

企業のシーズと市場のニーズ両面について詳しい知識を持ち、それらを踏まえてイノベティブな新製品の開発をリードし、新製品が社会に与える影響なども考慮できる人材。

さらに広がるキャリアプラン 企業の経営企画担当者、製品開発のプロジェクトリーダー、ベンチャービジネス経営者、事業コンサルタント、ベンチャーキャピタリストなど

履修モデル 心理コース 心理社会学科に所属するCさんの場合

イノベーションの普及過程を正しく理解した、情報戦略に詳しい**広告・広報担当者**を目指す。

〈個人とイノベーションの関係を体系的に学ぶ〉

心理コースでは、イノベーションの認知や個人における創造性の開発など、イノベーションと人間の心理や行動との関わりを取り扱う。個人のパーソナリティがイノベーションの生成や受容に与える影響、ブランドの与える波及効果・心理的効果、さらにはイノベーションを生み出す組織内での課題解決コミュニケーションや人間関係。イノベーションと個人に関わるこうした諸テーマを体系的・発展的に考察できる能力を育む。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 心理学 社会心理学 経済学 選択 C 家族と社会の変動	心理・社会の基礎を学ぶ 「イノベーション概論 [a][b]」などの必修科目に加え、「心理学」「社会心理学」の基礎を学ぶ。	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 自然科学 Ia・Ib 心身論 一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1、A2
	選択 B 市場調査法 心理実験法 マーケットへのアプローチ方法を習得 市場性の有無や広告効果の測定などのノウハウを身につけるため、「市場調査法」「心理実験法」を履修する。	2年次からコースを選択 心理 イノベーション心理学 認知心理学 I・II メディア心理学 パーソナリティ心理学 異文化間心理学 社会 イノベーション社会論 ゼミナール 基礎ゼミナール (心理) 基礎ゼミナール (社会)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 表象文化論入門 a・b 教養演習
2年	新製品の普及過程と広告など情報戦略を履修する。 イノベーションの普及プロセス、メディア環境の変化とユーザーへの影響、新しい製品の受容、製品購入にいたるまでの過程などに関連した科目を履修。さらに、「知的財産法」などの授業科目で広告・広報の仕事に求められる知識を養う。	政策 イノベーション政策論 戦略 マーケティング論 新商品開発論 消費行動論 心理 ヒューマンインターフェイス論 意思決定論、組織心理学 社会 現代社会福祉論 異文化間コミュニケーション論 I・II ゼミナール ゼミナール I	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 中国語選択 (初級) Ia・Ib、(初級) IIa・IIb English for Practical Proficiency 一般共通科目 ゴルフ エアロビクス&コンディショニング
		心理 ワークプレイス論 政策 知的財産法 ゼミナール ゼミナール II 卒業研究 卒業研究	学部共通科目 中国語選択 (中級) a・b 卒業研究例 「新製品の普及と広告メディアに関する一考察」
3年			
4年			

めざす将来

新製品受容の心理過程、メディアの影響、消費者の意思決定などの知識に根ざした、**広告・広報活動を行う能力を持った人材**。

さらに広がるキャリアプラン

広告・広報関連業務担当者、企業における人事管理（人的資源管理）担当者、企業内教育および総務担当者など

履修モデル 社会コース 心理社会学科に所属するDさんの場合

アジアに興味があり、将来はシンクタンクでアジアにおける経済計画や開発についての仕事に就きたい。

〈社会・文化とイノベーションの関係を幅広い視野から探求する〉

社会コースでは、人間関係・福祉・環境・宗教・文化・グローバリゼーションなど様々な局面での社会的課題について、その背景への理解を深めながら、今必要とされている社会に関わるイノベーションとは何かについて考察する。こうした問題を実証的に学ぶことによって、より広い、よりグローバルな視野からイノベーションと社会の関係を探求する。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 社会学 社会心理学 国際関係学 選択 C 文明と社会		外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 教養演習
2年	選択 B 社会調査法 イノベーションとグローバル社会を総合的に学ぶ グローバル化の問題と多様な社会の理解をめざし、多様な社会系科目を選択。また、実際にどのような経済計画や開発を行うかを学ぶための科目、さらに国際化や開発に伴う問題点やバランスのとれた社会の在り方を考えるための授業科目も履修する。	2年次からコースを選択 社会 イノベーション社会論 社会システム論 日本社会文化論Ⅰ・Ⅱ アジア社会文化論 現代国際社会学 政策 イノベーション政策論 ゼミナール 基礎ゼミナール(社会) 基礎ゼミナール(心理)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 中国語選択(初級)Ⅰa・Ⅰb、(初級)Ⅱa・Ⅱb 一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1・A2
3年		政策 イノベーション経済論、開発政策論 戦略 イノベーション戦略論 心理 認知心理学Ⅰ・Ⅱ メディア心理学 社会 異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ 環境社会論Ⅰ・Ⅱ、宗教社会論Ⅰ・Ⅱ ゼミナール ゼミナールⅠ	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings 中国語選択(中級) a・b 総合教養科目 社会構造論Ⅳ a・b 一般共通科目 サッカー&フットサル テニス
4年		戦略 組織論 社会 現代社会福祉論 NGO・NPO論 ゼミナール ゼミナールⅡ 卒業研究 卒業研究	卒業研究例 「アジアの社会と開発に関する一試論」

教養科目で幅広い知識を吸収

生きた英語能力を培う
 海外での活動を考え、外国語科目に加えて「English for International Communication」「English for Academic Settings」を履修する。

履修モデル

めざす将来

人間に対する基本的な知識をもち、グローバル化の問題と多様な社会のあり方を理解し、経済計画や開発についての実務能力を持った人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国連等国際機関での活動従事者、ジャーナリスト、NGO・NPO職員など

社会調査士資格

1 社会調査士資格とは

社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身に付けた人に対して与えられる資格である。資格の認定は、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の三学会を基盤とする一般社団法人社会調査協会（以下、「社会調査協会」という）が行う。

2 資格取得の条件

社会調査士の資格を取得するためには、社会調査協会が標準カリキュラムとして認定した科目の単位を修得し、学士の学位を取得した上で、社会調査協会に対して資格認定の申請を行う必要がある。

※ 申請手続きの詳細は、社会調査協会のホームページで確認すること。

【標準カリキュラム】

科目区分		備考
A	社会調査の基本的事項に関する科目	必ず修得すること。
B	調査設計と実施方法に関する科目	必ず修得すること。
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	必ず修得すること。
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	必ず修得すること。
E	多変量解析の方法に関する科目	どちらか1つで可。
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	
G	社会調査を実際に経験し学習する科目	必ず修得すること。

3 本学部での対応科目

本学部での開講科目では、以下の科目が標準科目として対応している。

【認定科目一覧】

標準カリキュラム	本学部開講科目	備考
A 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査法	社会調査法の単位により、A・B双方を修得することになる。
B 調査設計と実施方法に関する科目		
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	情報リテラシー	
D 社会調査に必要な統計学に関する科目	データ分析入門	
E 多変量解析の方法に関する科目	市場調査法 コンピュータ・リテラシーC	いずれか1科目
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査専門演習	

4 問い合わせ

〔一般社団法人社会調査協会事務局〕

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-18 メゾン鈴博3F

TEL : 03-6273-9784

FAX : 03-5684-0374

ホームページ : <http://jasr.or.jp/>

〔学部問い合わせ先〕

社会イノベーション学部研究事務室

〒157-8511 世田谷区成城6-1-20

TEL : 03-3482-9764

E-Mail : ninno121@seijo.jp

交換留学・認定留学で修得した単位の認定

1 交換留学・認定留学

本学には、協定を結んでいる大学との間で相互に学生を派遣する交換留学制度、及び、学位授与権のある海外の大学を自由に選択できる認定留学制度がある。これらの制度を用いて、半年から1年間の留学をした学生が、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することを希望する場合、以下の手続きが必要になる。

2 本学における単位認定・成績について

- ① 留学中に修得した単位を、成城大学での卒業単位として認定するにあたっては、以下のよう
に計算によって授業時間を算出する。留学中に単位を修得した科目の授業時間が1350
分に相当すれば2単位、2025分に相当すれば3単位、2700分に相当すれば4単位と
して認定する。なお、修得した単位が語学・実技科目にあたる場合には、認定される単位
数はこの半分になる。
(例) 2単位科目 90分×15回=1350分
- ② 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語
科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充
当することができる。
- ③ 2年次後期の必修科目「English II: Business Reading and Writing [b]」については、
授業の成績に加えて、TOEIC450点以上のスコアが単位認定に必要である。そのため、
以下のいずれかの手順で、TOEICのスコアを用意すること。
 - 1) 出発前の6月ないしは7月のTOEICを受験して、450点以上のスコアを取得する。
 - 2) 帰国後の6月ないしは7月のTOEICを受験して、450点以上のスコアを取得する。
- ④ 留学により、2年次の基礎ゼミナールを履修することが出来ない場合は、留学中に修得し
た単位により帰国後に単位認定を行う。
- ⑤ 3年次以降のゼミナールは、留学中も所属するゼミで継続して履修している扱いとする。
そのため、帰国後に単位認定を行うのではなく、留学中に所属ゼミの担当教員から与えら
れた課題を含めて、年度末に成績を付与する。
- ⑥ 留学期間が4年次後期に及んだ場合には、留学した年度に卒業することができないので注
意すること。

3 留意事項

- ① 留学に出発する前の前期と、帰国してからの後期の履修を組み合わせ、通年科目を履修
することができる(ブリッジ履修)。帰国した際に授業時間割が変更されるなどして、ブリッ
ジ履修がうまく成立しないケースも考えられるので、注意すること。
- ② 帰国後に、留学中に修得した単位を、成城大学での卒業単位として認定する作業を行う。
その際に必要となるので、履修した授業については、必ず教科書やノート、シラバスを保
管しておくこと。

学則・その他

成城大学学則 成城大学学位規則

大学ホームページ
【成城大学について／大学概要／学則】
<https://www.seijo.ac.jp/about/outline/policies/>

キャンパスマップ

大学ホームページ
【成城大学について／キャンパスマップ】
<https://www.seijo.ac.jp/about/map/>

成城大学 社会イノベーション学部
履修の手引

2025年4月発行

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20
成城大学 教務部
TEL. 03-3482-9045



授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表

授業科目の新設

新設年度	授 業 科 目 名	備 考	
2025年度	イノベーション・マーケティング イノベーションとマーケティング・リサーチ	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目	
	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ キャリア・イクスピアリエンス ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ	<両学科共通> 一般共通科目
	ラグビー(A)	ラグビー(B)	<両学科共通> 一般共通科目
	アート、デザインとクリエイティビティ		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
2024年度	アントレプレナーシップ&リーダーシップ		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	Japan Studies IXA	Japan Studies IXB	学部共通科目
	海外短期語学研修(スペイン語・春季)	海外短期語学研修(スペイン語・夏季)	学部共通科目
	日本語(初級1)Ⅰ～Ⅱ 日本語(中級)Ⅰ～Ⅳ	日本語(初級2)Ⅰ～Ⅲ	学部共通科目
	地域イノベーション論		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
2023年度	コミュニケーション・デザイン実践演習		<両学科共通> 専門科目 選択A 学科共通科目
	Special Topics VA	Special Topics VB	総合教養科目
	English I: Social Interaction [a]・[b]	English I: Academic Interaction [a]・[b]	外国語科目 必修
2022年度	認知心理学Ⅰ	認知心理学Ⅱ	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 心理系科目
	日本社会文化論Ⅰ・Ⅱ アメリカ社会文化論Ⅰ・Ⅱ 現代社会福祉論	ケアの社会学 宗教社会論Ⅰ・Ⅱ	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ 機械学習応用		2022年度以降入学者のみ履修可 総合教養科目
	数理科学基礎a・b 数理科学応用a・b		総合教養科目
	日本語(初級)ⅠA・ⅠB 日本語(初級)ⅡA・ⅡB	日本語(初級)ⅢA・ⅢB 日本語(初級)ⅣA・ⅣB	学部共通科目
2020年度	政策イノベーション特殊講義Ⅱ		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 学科共通科目 心理社会学科:専門科目 選択B 学科共通科目
	環境社会論Ⅰ	環境社会論Ⅱ	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	韓国語会話選択a・b ディプロム・コース中級(スペイン語)a・b	ディプロム・コース中級(韓国語)a・b	学部共通科目
2019年度	国際協力・開発イノベーション論		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
	グローバル・イノベーション・マネジメント論		政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	日本語(初級)ⅠA・ⅠB 日本語(上級)ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB	日本語(中級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB	学部共通科目
2018年度	Special Topics IVA・IVB		総合教養科目
	英語リスニング&スピーキング(初級)a・b 英語リスニング&スピーキング(中級)a・b 英語リスニング&スピーキング(上級)a・b 英語リーディング&ライティング(初級)a・b 英語リーディング&ライティング(中級)a・b 英語リーディング&ライティング(上級)a・b		学部共通科目
	英会話選択a・b ビジネス英語a・b 英文多読a・b Academic Communication a・b	仏語選択(初級)Ⅱa・Ⅱb 仏語選択(中級)a・b スペイン語選択(初級)a・b スペイン語選択(中級・ディプロム)a・b	
	独会話選択a・b 独語選択(初級)Ⅰa・Ⅰb 独語選択(初級)Ⅱa・Ⅱb 独語選択(中級)a・b	中国語選択(初級)Ⅰa・Ⅰb 中国語選択(初級)Ⅱa・Ⅱb 中国語選択(中級)a・b	
	仏会話選択a・b 仏語選択(初級)Ⅰa・Ⅰb	韓国語選択(初級)a・b 韓国語選択(中級・ディプロム)a・b	
	海外短期語学研修(英語・春季) 海外短期語学研修(英語・夏季) 海外短期語学研修(独語・春季) 海外短期語学研修(仏語・春季) 海外短期語学研修(中国語・夏季) 海外短期語学研修(英語・就業体験準備)		

授業科目の名称変更

変更年度	新 授 業 科 目 名	旧 授 業 科 目 名	備 考
2023年度	イノベーション概論[a]	イノベーション概論	基礎科目 必修科目
	イノベーション概論[b]	科学技術と社会	
	イノベーション・マネジメント実践演習	社会イノベーション特殊演習	<両学科共通> 専門科目 選択A 学科共通科目
2022年度	データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ	総合教養科目
	データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ	
	データアナリティクス応用	データサイエンス応用	
	機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	
2020年度	政策イノベーション特殊講義Ⅰ	政策イノベーション特殊講義	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 学科共通科目 心理社会学科:専門科目 選択B 学科共通科目
2018年度	ディプロム・コース中級(独語)a	ディプロム・コース中級(独語)A	学部共通科目
	ディプロム・コース中級(独語)b	ディプロム・コース中級(独語)B	
	ディプロム・コース上級(独語)a	ディプロム・コース上級(独語)A	
	ディプロム・コース上級(独語)b	ディプロム・コース上級(独語)B	
	ディプロム・コース中級(仏語)a	ディプロム・コース中級(仏語)A	
	ディプロム・コース中級(仏語)b	ディプロム・コース中級(仏語)B	
	ディプロム・コース上級(仏語)a	ディプロム・コース上級(仏語)A	
	ディプロム・コース上級(仏語)b	ディプロム・コース上級(仏語)B	

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授 業 科 目 名	備 考
2024年度	現代企業論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	海外長期語学研修	<両学科共通> 外国語科目 必修
	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ プロジェクト演習 業界企業分析 職業選択 キャリア・プランニング・プログラムⅠ 時事英語Ⅰ 時事問題研究	キャリア・プランニング・プログラムⅡ 時事英語Ⅱ <両学科共通> 一般共通科目
2023年度	Oceanian Studies A	Oceanian Studies B 学部共通科目
	日本語(初級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB 日本語(上級)ⅤA・ⅤB	日本語(中級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB 学部共通科目
2022年度	不動産開発論	都市開発論 政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
	ロジスティクス論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	Academic Skills VIA	Academic Skills VIB 一般共通科目
2021年度	English I: Social Interaction	English I: Academic Interaction 外国語科目 必修
	認知心理学	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 心理系科目
	日本社会文化論 アメリカ社会文化論	宗教社会論 生活福祉論 政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	数理科学Ⅰa～Ⅱb	総合教養科目
2020年度	日本語(初級)ⅠA・ⅠB	学部共通科目
2019年度	環境社会論	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	Academic Communication a・b スペイン語選択(中級・ディプロム)a・b	韓国語選択(中級・ディプロム)a・b 学部共通科目
2018年度	日本語A	日本語B 学部共通科目
2017年度	選択英語a・b	2017年度入学者のみ:学部共通科目
	選択英語	2016年度入学者:学部共通科目
	英語リスニング&スピーキング(初級) 英語リスニング&スピーキング(中級) 英語リスニング&スピーキング(上級) 英語リーディング&ライティング(初級) 英語リーディング&ライティング(中級) 英語リーディング&ライティング(上級) 英会話選択 ビジネス英語 英文多読 Academic Communication 独会話選択 独語選択(初級)A・B	独語選択(中級) 仏会話選択 仏語選択(初級)A・B 仏語選択(中級) スペイン語選択(初級) スペイン語選択(中級・ディプロム) 中国語選択(初級)A・B 中国語選択(中級) 韓国語選択(初級) 韓国語選択(中級・ディプロム) 海外短期語学研修 日本語コミュニケーションA・B
		学部共通科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。